

基本情報

科目名	武道
時間割コード	0450380101
ナンバリングコード	A 13083-P-15
開講所属	看護福祉学部鍼灸スポーツ学科
ターム・学期	2024年度 第 1 学期
曜限	水 2, 木 4
開講区分	第 1 学期
単位数	1.0
学年	1
主担当教員	平崎 和雄
科目区分	専門科目 鍼灸専門科目（総合）
必選区分	選択

担当教員情報

教員名
平崎 和雄、石橋 剛士

詳細情報

授業の目的・到達目標	本科目は、健康増進並びにスポーツ医学に関することを学ぶ。 学修者は、それぞれの種目の特性として歴史・基本ルールを知り、基本的な型・稽古の技術を習得する。それらの技術や戦略を指導できるように自分の言葉で説明できるようになる。
履修上の注意事項	中学校・高等学校保健体育教諭免許状を取得希望の学生は必ず受講すること。 アスレティックトレーナー取得希望者は受講を推奨する。
評価方法	受講態度、提出物を総合的に判断し評価する。
テキスト	なし、必要なプリントを適宜配布することがあります。
参考文献	なし
実務経験のある教員による授業の有無	有
実務経験・実務経験を活かした教育内容	平崎：全空連参段で道場で指導、石橋：全柔連四段で高等学校で指導の経験から中学校、高等学校の授業が展開できるように進める。
アクティブ・ラーニング及びICTを取り入れた授業の実施	該当なし

授業計画

授業計画
該当するデータはありません

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
1	オリエンテーションと武道歴史や基本的ルールや試合・演武を説明できる（平崎）	・事前学修：今回の内容を事前に下調べしておく。（2時間） ・事後学修：わからなかった内容は他者に説明できるようになるまで調べる。また、内容を踏まえて復習しておく（2時間）	
2	空手道の歴史や基本的ルールやについて説明できる（平崎）	・事前学修：今回の内容を事前に下調べしておく。（2時間） ・事後学修：わからなかった内容は他者に説明できるようになるまで調べる。また、内容を踏まえて復習しておく（2時間）	
3	空手道の受け・突き・蹴り及び型の種類、組手の攻防について説明できる（平崎）	・事前学修：今回の内容を事前に下調べしておく。（2時間） ・事後学修：わからなかった内容は他者に説明できるようになるまで調べる。また、内容を踏まえて復習しておく（2時間）	
4	空手道の基本型の指導が説明できる（平崎）	・事前学修：今回の内容を事前に下調べしておく。（2時間） ・事後学修：わからなかった内容は他者に説明できるようになるまで調べる。また、内容を踏まえて復習しておく（2時間）	

授業計画

該当するデータはありません

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
5	空手道の特殊型の指導が説明できる（平崎）	・事前学修：今回の内容を事前に下調べしておく。（2時間） ・事後学修：わからなかった内容は他者に説明できるようになるまで調べる。また、内容を踏まえて復習しておく（2時間）	
6	空手道の一本組手の指導が説明できる（平崎）	・事前学修：今回の内容を事前に下調べしておく。（2時間） ・事後学修：わからなかった内容は他者に説明できるようになるまで調べる。また、内容を踏まえて復習しておく（2時間）	
7	空手道の自由組手の指導が説明できる（平崎）	・事前学修：今回の内容を事前に下調べしておく。（2時間） ・事後学修：わからなかった内容は他者に説明できるようになるまで調べる。また、内容を踏まえて復習しておく（2時間）	
8	空手道の型・組手攻防の指導教育法が説明できる（平崎）	・事前学修：今回の内容を事前に下調べしておく。（2時間） ・事後学修：わからなかった内容は他者に説明できるようになるまで調べる。また、内容を踏まえて復習しておく（2時間）	
9	柔道の歴史や基本的ルールや試合を説明できる（石橋）	・事前学修：今回の内容を事前に下調べしておく。（2時間） ・事後学修：わからなかった内容は他者に説明できるようになるまで調べる。また、内容を踏まえて復習しておく（2時間）	
10	柔道の受け身の指導について説明できる（石橋）	・事前学修：今回の内容を事前に下調べしておく。（2時間） ・事後学修：わからなかった内容は他者に説明できるようになるまで調べる。また、内容を踏まえて復習しておく（2時間）	
11	柔道の投げ技の指導が説明できる（石橋）	・事前学修：今回の内容を事前に下調べしておく。（2時間） ・事後学修：わからなかった内容は他者に説明できるようになるまで調べる。また、内容を踏まえて復習しておく（2時間）	
12	柔道の寝技の指導が説明できる（石橋）	・事前学修：今回の内容を事前に下調べしておく。（2時間） ・事後学修：わからなかった内容は他者に説明できるようになるまで調べる。また、内容を踏まえて復習しておく（2時間）	
13	柔道の係稽古の指導が説明できる（石橋）	・事前学修：今回の内容を事前に下調べしておく。（2時間） ・事後学修：わからなかった内容は他者に説明できるようになるまで調べる。また、内容を踏まえて復習しておく（2時間）	
14	柔道の乱取り指導が説明できる（石橋）	・事前学修：今回の内容を事前に下調べしておく。（2時間） ・事後学修：わからなかった内容は他者に説明できるようになるまで調べる。また、内容を踏まえて復習しておく（2時間）	

授業計画

該当するデータはありません

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
15	柔道の攻防の指導教育法が説明できる（石橋）	・事前学修：今回の内容を事前に下調べしておく。（２時間） ・事後学修：わからなかった内容は他者に説明できるようになるまで調べる。また、内容を踏まえて復習しておく（２時間）	

基本情報

科目名	ダンス
時間割コード	0450380201
ナンバリングコード	A 13083-P-15
開講所属	看護福祉学部鍼灸スポーツ学科
ターム・学期	2024年度 第 2 学期
曜限	他
開講区分	第 2 学期
単位数	1.0
学年	1
主担当教員	藤崎 道子
科目区分	専門科目 鍼灸専門科目（総合）
必選区分	選択

担当教員情報

教員名
藤崎 道子

詳細情報

授業の目的・到達目標	ダンスは柔軟な身体を維持するために必要とされる身体運動である。 本講座で学修者は保健体育科で扱う現代的なリズムのダンス・感情表現としての創作ダンス・フォークダンスについて理解を深めながら体を使って自己を表現し、他者とのノンバーバルコミュニケーションを取れるようになることが目的となる。 技術の習得では 現代的なリズムでのウォーミングアップを習得し、恥ずかしがらずに、のびやかに動ける身体を身につけることができるようになる。 即興的に動きで感情表現を行いながらストーリーを描けるようになる。 フォークダンスについてリサーチし、その特徴をグループ発表できるようになる。 またダンスの要素を取り入れたエアロビック運動としてのエアロビックダンスを体験し、表現としてのダンスの違いを理解し、エアロビックダンスの基礎動作習得および他者への指導ができるようになることを到達目標とする。
履修上の注意事項	実技に支障をきたすようなものを身につけないこと。（アクセサリー） 学習指導要項のダンスの分野に必ず目を通しておくこと。（教職希望者） 予習・復習として120分の自学習を行うこと。
評価方法	個人技能実技試験（現代的ダンス）3 0 %、フォークダンスグループ発表3 0 %、レポート1 0 %、学習態度3 0 %
テキスト	特になし
参考文献	特になし
実務経験のある教員による授業の有無	有
実務経験・実務経験を活かした教育内容	エアロビックダンス指導者として2 5 年、現場指導。 公益社団法人 日本フィットネス協会のディレクター及びエグザミネーとしてエアロビクスに関する資格取得の講習会担当。
アクティブ・ラーニング及びICTを取り入れた授業の実施	グループによる発表に向け、個人レベルでフォークダンスの行い方を調べたものを出し合い、グループ内でまとめる作業を実施します

授業計画

授業計画
ダンスにおける3項目をしっかりと理解するための体験と実習を交えた授業内容です。単に受動的な実技スタイルではなく、能動的に自らダンスの良さについて調べ、伝えることを行います。また感受性を高め、発想力を引き出すことを目的とした授業です。

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
1	オリエンテーション（授業の進め方、成績評価の方法、その他諸注意）ダンスDVD鑑賞	ダンスに関する動画（YouTubeなどを活用）を事前に見ておく。	
2	学校体育における「ダンス」の位置づけとねらい・ダンスとエアロビックダンスとの違いを理解する	授業で学んだダンスの特徴についてノートにまとめる	
3	現代的リズムのダンス（アップテンポの曲に合わせてのびのびと動く）	授業で行ったダンス動作を一日20分、練習する（20分×6回）	
4	現代的リズムのダンス（表現力を高めるためのアイソレーション・基本ステップの習得）	ストレッチを一日20分行う（20分×6回）	

授業計画

ダンスにおける３項目をしっかりと理解するための体験と実習を交えた授業内容です。単に受動的な実技スタイルではなく、能動的に自らダンスの良さについて調べ、伝えることを行います。また感受性を高め、発想力を引き出すことを目的とした授業です。

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
5	現代的リズムのダンス（課題ダンス習得と表現理解）	授業で行ったダンス動作を一日２０分、練習する（２０分×６回）	
6	現代的リズムのダンス実技技能テストに向けた練習	実技試験で行う課題ダンスの練習を行う	
7	ダンス実技試験	実技試験を実施後の自己フィードバックをレポートする。	
8	創作ダンス（即興的に動きを創る）	課題に対する動きを創ってくる	
9	創作ダンス発表（グループ発表）	他者に対するフィードバックを書いてくる	
10	フォークダンス	世界のフォークダンス・日本の伝承された踊りについて事前に調べてくる	
11	フォークダンス実習	授業後の自己フィードバックを行う	
12	フォークダンスグループ発表	授業後の自己フィードバックを行う	
13	エアロビックダンス体験	エアロビックダンス体験の感想をまとめる	
14	エアロビックダンス指導ドリル	既定の動きと指導法を練習してくる	
15	エアロビックダンス指導実習	ダンスやエアロビックダンスを行うことでの意義について考えをまとめておく	

基本情報

科目名	水泳
時間割コード	0450380301
ナンバリングコード	A 13083-P-15
開講所属	看護福祉学部鍼灸スポーツ学科
ターム・学期	2024年度 第 1 学期
曜限	木 5, 他
開講区分	第 1 学期
単位数	1.0
学年	1
主担当教員	國木 孝治
科目区分	専門科目 鍼灸専門科目（総合）
必選区分	選択

担当教員情報

教員名
國木 孝治

詳細情報

授業の目的・到達目標	【目的】 水を媒体とした運動は日常生活とは異なった環境のもとで行われるため、身体に対してさまざまな影響を及ぼす。より安全で有効に行うために本授業では、水泳および水中運動で行われる各種目に関して水辺の安全や事故防止について理解したうえで、生涯を通じて水に親しむことを第1の目的としている。第2に、中・高保健体育教員免許・アスレチックトレーナー・健康運動指導士（健康運動実践指導者）資格を目指すために必要とされる基礎的な知識・技能および指導法を実践を通じて身につけることをねらいとし、水泳・水中運動を介した健康増進に貢献できる実践力を育成することを目的としている。 なお、本授業は講義と実技で構成され、指導法の確認は演習形式で実施する。 【到達目標】 ・各種泳法において続けて長く、速く泳ぐための基本的な技術及び知識を習得することができる。 ・年令、性差、発達段階における特性の理解と、科学的根拠に基づいた実践的能力を身につけることができる。 ・水の特性を理解し、水辺の安全管理と事故防止、及び万が一の際の救助法を習得することができる。 ・水泳・水中運動に関する指導力を身につけることができる。
履修上の注意事項	・中学校および高等学校保健体育免許取得要件科目 ・アスレチックトレーナー資格取得要件科目 ・健康運動指導士（健康運動実践指導者）資格取得要件科目 ・実技は、校外（岱明町B&G海洋センター・プール）を利用しての授業のため、別途費用（施設利用料等）がかかる。 ・第1回目の授業は、授業ガイダンス（履修者確認及び費用等の説明）に加えて、水泳・水中運動理論に関する講義及び小テスト、並びに小テスト後のリフレクションを行う。 ・水着、スイムキャップ、ゴーグル、タオル、給水用の水筒などは各自で準備しておくこと。
評価方法	・講義も数時間実施するが基本的には実技が中心となるため、授業への取り組みを重視する。さらに授業態度、技術点も評価する。 1) 授業に取り組む姿勢（出席度、学習意欲）：（35/100） 2) 学科テスト（水泳水中運動の理論、ウォーターセーフティに関する知識）：（30/100） 3) 技能テスト（技能習熟度）：（35/100）
テキスト	必要に応じて資料を配布する。
参考文献	・文部科学省（2014）水泳指導の手引き（三訂版），アイフィス． ・日本水泳連盟編（2012）水泳指導教本（三訂版），大修館書店． ・合屋十四秋（2018）水泳水中運動のカラクリとその指導 - 科学的エビデンスにもとづくティーチングメソッド-, インプレスR&D． ・日本ライフセービング協会編（2019）ウォーターセーフティ教本，大修館書店． ・日本ライフセービング協会編（2017）プール・ライフガーディング教本，大修館書店． ・日本ライフセービング協会編（2016）心肺蘇生教本 - JRC蘇生ガイドライン2015準拠 -, 大修館書店． ・入江由香子（2006）健康運動指導のための健康管理概論，杏林書院． ・健康・体力づくり事業財団編（2021）健康運動実践指導者養成用テキスト． ・健康・体力づくり事業財団編（2021）健康運動指導士養成講習会テキスト（上・下）．
実務経験のある教員による授業の有無	有
実務経験・実務経験を活かした教育内容	・中学校及び高等学校勤務経験 ・日本ライフセービング協会認定ライフセービング指導員 ・日本水泳連盟認定基礎水泳指導員

詳細情報

アクティブ・ラーニング及びICTを取り入れた授業の実施	この授業では、自らが体を動かし運動実践を行うことで課題を見つけ解決したり、他者の運動を観察することで課題を指摘したりする等、主体的・対話的で深い学びの実現を行う。また、講義（一部実技を含む）では、ICT教材を活用した効果的な学習場面を設定することによって、個別学習や協働学習の促進を目指す。
-----------------------------	---

授業計画

授業計画
授業1-2回目は、オリエンテーションに加えて、水泳・水中運動に関する講義（及び小テスト）を実施する。 3回目以降は、校外施設（プール）を利用した実技を中心に、2時間続きでの実施となる（プール実技の実施回数は延7回の実施）。

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
1	オリエンテーション	（事前） シラバスを読み授業の全体像を把握しておく。（1時間）	水泳実技実施会場の説明、移動及び利用料等について。
2	水泳・水中運動概論	1．水泳・水中運動とは 2．水泳・水中運動の特性（力学・生理学） 3．水泳・水中運動の効果 4．健康のための水泳・水中運動の実際 5．安全に対する注意 について、 （事前） 参考文献等を読み、わからない事項について下調べしておくこと（1時間） （事後） ノートを整理し、講義やレポート課題の内容等を再確認する。（1時間）	小テストの実施
3	ウォーターセーフティ ：基礎	1．ウォーミングアップ 2．入退水 3．浮き身 4．立ち泳ぎ について、 （事前） 参考文献等を読み、わからない事項について下調べしておくこと（1時間）	グループワーク 実習
4	ウォーターセーフティ ：応用	5．PFD（ライフジャケット） 6．着衣泳 7．自助：セルフレスキュー 8．共助：パディシステム、救助の手順 （事前） 参考文献等を読み、わからない事項について下調べしておくこと（1時間）	グループワーク 実習
5	アクアフィットネス ：基礎	1．水中ウォーキング 2．水中レジスタンス運動 について、 （事前） 参考文献等を読み、わからない事項について下調べしておくこと（1時間）	グループワーク 実習
6	アクアフィットネス ：応用	3．アクアビクス について、 （事前） 参考文献等を読み、わからない事項について下調べしておくこと（1時間）	グループワーク 実習
7	水中レジスタンス運動・アクアビクス指導	1．水中レジスタンス運動指導実習 2．アクアビクス指導実習 （事前） 「学習指導案」を作成する（1時間） （事後） 指導実習の振り返り（1時間）	グループワーク 実習
8	水泳 ：基礎	1．ストリームライン 2．蹴伸び 3．スカーリング について、 （事前） 参考文献等を読み、わからない事項について下調べしておくこと（1時間）	グループワーク 実習

授業計画

授業1-2回目は、オリエンテーションに加えて、水泳・水中運動に関する講義（及び小テスト）を実施する。
3回目以降は、校外施設（プール）を利用した実技を中心に、2時間続きでの実施となる（プール実技の実施回数は延7回の実施）。

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
9	水泳：背泳ぎ泳法	1. 背泳ぎ泳法 2. 背泳ぎの呼吸法 3. 背泳ぎのターン について、 （事前） 参考文献等を読み、わからない事項について下調べしておくこと（1時間）	グループワーク 実習
10	水泳：クロール泳法	1. クロール泳法 2. クロールの呼吸法 3. クロールのターン について、 （事前） 参考文献等を読み、わからない事項について下調べしておくこと（1時間）	グループワーク 実習
11	水泳：バタフライ泳法	1. バタフライ泳法 2. バタフライの呼吸法 3. バタフライのターン について、 （事前） 参考文献等を読み、わからない事項について下調べしておくこと（1時間）	グループワーク 実習
12	水泳：平泳ぎ泳法	1. 平泳ぎ泳法 2. 平泳ぎの呼吸法 3. 平泳ぎのターン について、 （事前） 参考文献等を読み、わからない事項について下調べしておくこと（1時間）	グループワーク 実習
13	水泳：個人メドレー	1. 4泳法の再確認 2. 複数の泳法で泳ぐ 3. メドレーリレー について、 （事前） 参考文献等を読み、わからない事項について下調べしておくこと（1時間）	グループワーク 実習
14	泳法測定：泳法	近代4泳法 について、 （事前） 空いている時間を活用して泳法の再確認をする（1時間）	グループワーク 実習
15	泳法測定：個人メドレー	個人メドレー について、 （事前） 空いている時間を活用して泳法の再確認をする（1時間）	グループワーク 実習
16	水泳（4泳法）指導 授業総括	4泳法指導実習 （事前） 「学習指導案」を作成する（1時間） （事後） 指導実習の振り返り（1時間）	グループワーク プレゼンテーション 実習
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			

基本情報

科目名	陸上競技
時間割コード	0450380401
ナンバリングコード	A 13083-P-15
開講所属	看護福祉学部鍼灸スポーツ学科
ターム・学期	2024年度 第 2 学期
曜限	他
開講区分	第 2 学期
単位数	1.0
学年	1
主担当教員	國木 孝治
科目区分	専門科目 鍼灸専門科目（総合）
必選区分	選択

担当教員情報

教員名
國木 孝治

詳細情報

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 本授業では、陸上競技の実技を通して各種目の基礎知識・技能を習得することを目的に、グループワークやプレゼンテーションを適宜行い、中高保健体育教師、及び健康運動指導士（健康運動実践指導者）、並びにアスレチックトレーナー（コーチングアシスタント）資格に必要な知識や指導法について学んでいく。 【到達目標】 ・陸上競技の歴史や各種の特性について理解することができる。 ・陸上競技を安全に実施するための基礎的知識・技能を獲得することができる。 ・陸上競技を実施するためのフィールドや用具について、準備・設置、及びメンテナンスの知識を獲得することができる。 ・健康運動指導をするための基礎的知識・技能を獲得することができる。 ・陸上競技、及び健康運動指導の基礎的指導を行うことができる。
履修上の注意事項	・中・高教職履修者（保健体育）：必修科目。 ・健康運動指導士・健康運動実践指導者の履修者：必修科目。
評価方法	・参加意欲・態度：20/100 ・知識：20/100（レポート評価） ・技能：60/100 - 実技試験：30/100 - 模擬指導：30/100
テキスト	・特に必要としない（必要な場合は適宜配布）
参考文献	1）日本陸上競技連盟編（2017）キッズの陸上競技，大修館書店． 2）日本陸上競技連盟編（2015）基礎から身につく陸上競技，大修館書店． 3）日本陸上競技連盟編（2021）陸上競技ルールブック（2021年度版），ベースボールマガジン社． 4）小室史恵・杉山ちなみ監訳（2002）ストレッチング，有限会社ナップ． 5）トル・ゴダス著：楡井浩一訳（2011）なぜ人は走るのか：ランニングの人類史，筑摩書房 6）三浦望慶編（2015）ノルディック ウォーキング：効果的な健康運動，アイオーエム． 7）能勢博（2019）ウォーキングの科学，講談社．
実務経験のある教員による授業の有無	有
実務経験・実務経験を活かした教育内容	・中学校及び高等学校勤務経験 ・日本陸上競技連盟：ジュニアコーチ ・日本スポーツ協会：陸上競技コーチ
アクティブ・ラーニング及びICTを取り入れた授業の実施	この授業では、自らが体を動かし運動実践を行うことで課題を見つけ解決したり、他者の運動を観察することで課題を指摘したりする等、主体的・対話的で深い学びの実現を行う。また、講義（一部実技を含む）では、ICT教材を活用した効果的な学習場面を設定することによって、個別学習や協働学習の促進を目指す。

授業計画

授業計画
雨天の場合には屋内にて実施するため、授業内容が前後する場合がある。

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
-----	--------	---------	----

授業計画

雨天の場合には屋内にて実施するため、授業内容が前後する場合がある。

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
1	授業ガイダンス	（事前） シラバスを確認し、授業全体の流れを理解しておくこと。（1時間）	授業の方法、到達目標、学習法について説明する。
2	ジョギング・ウォーキング(1) ・ウォーキング	ウォーミングアップとクーリングダウン ストレッチング ウォーキング実技 ・ウォーキングの特性 ・ウォーキングの実際 ・ウォーキング実施における安全 について、 （事前） 参考文献等を読み、わからない事項について下調べしておくこと（1時間）	グループワーク ディスカッション 実技
3	ジョギング・ウォーキング(2) ・ジョギング	ウォーミングアップとクーリングダウン ストレッチング ジョギング実技 ・ジョギングの特性 ・ジョギングの実際 ・ジョギング実施における安全 について （事前） 参考文献等を読み、わからない事項について下調べしておくこと（1時間）	グループワーク ディスカッション 実技
4	トラック競技のルール ・短距離走 ・中長距離走	トラックの構造 トラック競技のルール （事前） 参考文献等を読み、わからない事項について下調べしておくこと（1時間）	
5	短距離走	クラウチングスタート・スタンディングスタート スターティングブロックの使用法 ストップウォッチを用いた計測法 短距離走の指導法 記録の測定 について、 （事前） 参考文献等を読み、わからない事項について下調べしておくこと（1時間）	グループワーク ディスカッション 実技
6	ハードル走	用具とルールの把握 リード脚・抜き足・踏切・クリアランス・着地の動作 ハードル走の指導法 記録の測定 について、 （事前） 参考文献等を読み、わからない事項について下調べしておくこと（1時間）	グループワーク ディスカッション 実技
7	リレー	リレーのルール オーバーハンドパス・アンダーハンドパス テイクオーバーゾーンの有効的な活用 リレーの指導法 記録の測定 について、 （事前） 参考文献等を読み、わからない事項について下調べしておくこと（1時間）	グループワーク ディスカッション 実技
8	フィールド競技のルール ・跳躍 ・投擲	跳躍競技のルール 投擲競技のルール （事前） 参考文献等を読み、わからない事項について下調べしておくこと（1時間）	

授業計画

雨天の場合には屋内にて実施するため、授業内容が前後する場合がある。

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
9	走り幅跳び 三段跳び	走り幅跳び・三段跳びのルール 踏切の仕方 助走の取り方 走り幅跳びの指導法 記録の測定 について、 （事前） 参考文献等を読み、わからない事項について下調べしておくこと（1時間）	グループワーク ディスカッション 実技
10	走り高跳び	走り高跳びのルール 跳躍法 踏切の仕方 助走の取り方 リレーの指導法 記録の測定 について、 （事前） 参考文献等を読み、わからない事項について下調べしておくこと（1時間）	グループワーク ディスカッション 実技
11	砲丸投げ ハンマー投げ	砲丸投げ・ハンマー投げのルール 投法 投法の指導 記録の測定 について、 （事前） 参考文献等を読み、わからない事項について下調べしておくこと（1時間）	グループワーク ディスカッション 実技
12	円盤投げ やり投げ	円盤投げ・やり投げのルール 投法 投法の指導 記録の測定 について、 （事前） 参考文献等を読み、わからない事項について下調べしておくこと（1時間）	グループワーク ディスカッション 実技
13	持久走 ：基礎	様々な条件を設定しながら楽しく取り組める持久走のあり方 について、 （事前） 参考文献等を読み、わからない事項について下調べしておくこと（1時間）	グループワーク ディスカッション 実技
14	持久走 ：教授法	グループごとに考案した持久走の教授法についての発表と実践 について、 （事前） 参考文献等を読み、わからない事項について下調べしておくこと（1時間）	グループワーク ディスカッション 実技
15	まとめ	（事前） これまで学んできた内容について、忘れてしまったこと等を振り返る。（1時間）	これまでの授業内容、及び陸上競技の各種目やルールについて、振り返りを行う

基本情報

科目名	球技
時間割コード	0450380601
ナンバリングコード	A13083-P-15
開講所属	看護福祉学部鍼灸スポーツ学科
ターム・学期	2024年度 第2学期
曜限	他
開講区分	第2学期
単位数	1.0
学年	1
主担当教員	國木 孝治
科目区分	専門科目 鍼灸専門科目（総合）
必選区分	選択

担当教員情報

教員名
平崎 和雄、國木 孝治

詳細情報

授業の目的・到達目標	【目的】 本授業は、ゴール型、ネット型、ベースボール型...の3つの領域で構成し、型の種目特性（歴史、ルール、運動方法）を理解したうえで、基本的な動作・守備側・攻撃側の技術を習得すること、及び、それらの技術や戦略を指導できるようになることを目的としている。 【到達目標】 ・個人やチームの能力に応じた作戦を立て、集団対集団、個人対個人で勝敗することに楽しさや喜びを味わうことができる。 ・各種球技種目への理解を深め、指導法など運動指導者に必要な知識を身につけることができる。 ・対象者の年齢・体力・技能レベルなどの個人差を考慮した、安全で効果的な球技種目の指導法を習得することができる。 ・対象者の状況に応じた指導を計画的に実施するための能力を身につけることができる。 【ディプロマポリシーとの関連】 （全学DP）「こころ」豊かな人間性を培い、生涯に亘って専門性を追求し自己研鑽に努める能力を養う。 （学科DP）人間を身体的・精神的・社会的存在として統合的に理解することができる。
履修上の注意事項	・中学校・高等学校保健体育教諭免許状取得希望者：必修 ・アスレティックトレーナー取得希望者：受講推奨 ・本科目の特性上、授業内容ならびに学生に求める主体性・技能レベルは教員免許（保健体育）取得予定者向けに設定する。教員免許（中・高等学校：保健体育）を取得する予定のない者が履修する場合には、以下2点に注意すること。 1) 授業内容は試合形式主体ではなく、各種目の基本技能修得が主体となること。 2) 1) を通じて、球技種目の効果的・効率的な指導法と指導技術の修得を目指すこと。 ・実技科目を受講するうえでの基本的事項（マナー）として、装飾品（ピアスやネックレス等）は外し、長髪の場合は髪をまとめ、運動に適した服装で受講すること。
評価方法	1) 受講態度・意欲（技能、学びに向かう力）、2) 提出物（知識、思考力）、3) 指導法（技能、判断力・表現力）...等を総合的に判断し、評価する。
テキスト	なし 必要なプリントを適宜配布することがあります。
参考文献	・鈴木直樹（2022）「ゲーム・ボール運動・球技」授業づくりマスターガイド：小・中・高等学校における「ゲーム中心の指導アプローチ」，明治図書出版． ・日本コーチング学会編（2019）球技のコーチング，大修館書店． ・松井良明（2015）球技の誕生：人はなぜスポーツをするのか，平凡社．
実務経験のある教員による授業の有無	有
実務経験・実務経験を活かした教育内容	平崎：小学校専修免許を持ち競技団体トレーナー経験、國木：中学校及び高等学校勤務の経験から中学校、高等学校の授業を展開できるように進める
アクティブ・ラーニング及びICTを取り入れた授業の実施	グループワーク

授業計画

授業計画

本授業は、ゴール型、ネット型、ベースボール型...の3つの領域で構成し、取り扱う種目は次のとおり。

実施種目及び実施内容については、履修者状況や実施会場の状況に応じ選択・対応する。

ゴール型：サッカー（フットサルを含む）、バスケットボール（3×3を含む）、ラグビー（タグラグビーを含む）、ハンドボール、その他（アダプテッド・スポーツ等）

ネット型：バレーボール（ソフトバレーを含む）、バドミントン、卓球、テニス、その他（アダプテッド・スポーツ等）

ベースボール型：ソフトボール、その他（アダプテッド・スポーツ等）

No.	内容（担当）	事前・事後学習	備考
1	オリエンテーション（平崎・國木） ネット型球技（手嶋） ・歴史、基本的ルールやゲームの進行	【事後学習】 授業に必要な用具の準備	
2	ネット型球技（國木） ・サーブ・レシーブ・パス、アタック（スマッシュ）・ブロック（ボレー）	【事後学習】 授業の内容を振り返り、授業で取り扱ったネット型球技種目の特性、必要な技能、その種目を指導する上で配慮すべき事項について個人ノートにまとめる。 【事前学習】 次回の授業に向けて、自身の課題（改善したいところ、特に注力したいところ等）を明確にしておく。	グループワーク 実習
3	ネット型球技（國木） ・ゲーム中の守備側・攻撃側の作戦	【事後学習】 授業の内容を振り返り、授業で取り扱ったネット型球技種目の特性、必要な技能、その種目を指導する上で配慮すべき事項について個人ノートにまとめる。 【事前学習】 次回の授業に向けて、自身の課題（改善したいところ、特に注力したいところ等）を明確にしておく。	グループワーク 実習
4	ネット型球技（國木） ・練習方法（個人練習・集団練習）	【事後学習】 授業の内容を振り返り、授業で取り扱ったネット型球技種目の特性、必要な技能、その種目を指導する上で配慮すべき事項について個人ノートにまとめる。 【事前学習】 次回の授業に向けて、自身の課題（改善したいところ、特に注力したいところ等）を明確にしておく。	グループワーク 実習
5	ネット型球技（國木） ・ゲーム攻防の習熟度別教育法	【事後学習】 授業の内容を振り返り、授業で取り扱ったネット型球技種目の特性、必要な技能、その種目を指導する上で配慮すべき事項について個人ノートにまとめる。 【事前学習】 次回の授業に向けて、自身の課題（改善したいところ、特に注力したいところ等）を明確にしておく。	グループワーク 実習
6	ベースボール型球技（平崎） 歴史、基本的ルールやゲームの進行	【事後学習】 授業の内容を振り返り、授業で取り扱ったベースボール型球技種目の特性、必要な技能、その種目を指導する上で配慮すべき事項について個人ノートにまとめる。 【事前学習】 次回の授業に向けて、自身の課題（改善したいところ、特に注力したいところ等）を明確にしておく。	グループワーク 実習

授業計画

本授業は、ゴール型、ネット型、ベースボール型...の3つの領域で構成し、取り扱う種目は次のとおり。

実施種目及び実施内容については、履修者状況や実施会場の状況に応じ選択・対応する。

ゴール型：サッカー（フットサルを含む）、バスケットボール（3×3を含む）、ラグビー（タグラグビーを含む）、ハンドボール、その他（アダプテッド・スポーツ等）

ネット型：バレーボール（ソフトバレーを含む）、バドミントン、卓球、テニス、その他（アダプテッド・スポーツ等）

ベースボール型：ソフトボール、その他（アダプテッド・スポーツ等）

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
7	ベースボール型球技（平崎） ボールチャッチ・ボール投げ、打撃・バント	【事後学習】 授業の内容を振り返り、授業で取り扱ったベースボール型球技種目の特性、必要な技能、その種目を指導する上で配慮すべき事項について個人ノートにまとめる。 【事前学習】 次回の授業に向けて、自身の課題（改善したいところ、特に注力したいところ等）を明確にしておく。	グループワーク 実習
8	ベースボール型球技（平崎） ・ゲーム中の守備側・攻撃側の作戦	【事後学習】 授業の内容を振り返り、授業で取り扱ったベースボール型球技種目の特性、必要な技能、その種目を指導する上で配慮すべき事項について個人ノートにまとめる。 【事前学習】 次回の授業に向けて、自身の課題（改善したいところ、特に注力したいところ等）を明確にしておく。	グループワーク 実習
9	ベースボール型球技（平崎） ・練習方法（個人練習・集団練習）	【事後学習】 授業の内容を振り返り、授業で取り扱ったベースボール型球技種目の特性、必要な技能、その種目を指導する上で配慮すべき事項について個人ノートにまとめる。 【事前学習】 次回の授業に向けて、自身の課題（改善したいところ、特に注力したいところ等）を明確にしておく。	グループワーク 実習
10	ベースボール型球技（平崎） ・ゲーム攻防の習熟度別教育法	【事後学習】 授業の内容を振り返り、授業で取り扱ったベースボール型球技種目の特性、必要な技能、その種目を指導する上で配慮すべき事項について個人ノートにまとめる。 【事前学習】 次回の授業に向けて、自身の課題（改善したいところ、特に注力したいところ等）を明確にしておく。	グループワーク 実習
11	ゴール型球技（平崎） ・歴史、基本的ルールやゲームの進行	【事後学習】 授業の内容を振り返り、授業で取り扱ったゴール型球技種目の特性、必要な技能、その種目を指導する上で配慮すべき事項について個人ノートにまとめる。 【事前学習】 次回の授業に向けて、自身の課題（改善したいところ、特に注力したいところ等）を明確にしておく。	グループワーク 実習
12	ゴール型球技（平崎） ・ボールキャッチ・パス（キック）・デフェンス等	【事後学習】 授業の内容を振り返り、授業で取り扱ったゴール型球技種目の特性、必要な技能、その種目を指導する上で配慮すべき事項について個人ノートにまとめる。 【事前学習】 次回の授業に向けて、自身の課題（改善したいところ、特に注力したいところ等）を明確にしておく。	グループワーク 実習

授業計画

本授業は、ゴール型、ネット型、ベースボール型...の3つの領域で構成し、取り扱う種目は次のとおり。

実施種目及び実施内容については、履修者状況や実施会場の状況に応じ選択・対応する。

ゴール型：サッカー（フットサルを含む）、バスケットボール（3×3を含む）、ラグビー（タグラグビーを含む）、ハンドボール、その他（アダプテッド・スポーツ等）

ネット型：バレーボール（ソフトバレーを含む）、バドミントン、卓球、テニス、その他（アダプテッド・スポーツ等）

ベースボール型：ソフトボール、その他（アダプテッド・スポーツ等）

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
13	ゴール型球技（平崎） ・ゲーム中の守備側・攻撃側の作戦	【事後学習】 授業の内容を振り返り、授業で取り扱ったゴール型球技種目の特性、必要な技能、その種目を指導する上で配慮すべき事項について個人ノートにまとめる。 【事前学習】 次回の授業に向けて、自身の課題（改善したいところ、特に注力したいところ等）を明確にしておく。	グループワーク 実習
14	ゴール型球技（平崎） ・練習方法（個人練習・集団練習）	【事後学習】 授業の内容を振り返り、授業で取り扱ったゴール型球技種目の特性、必要な技能、その種目を指導する上で配慮すべき事項について個人ノートにまとめる。 【事前学習】 次回の授業に向けて、自身の課題（改善したいところ、特に注力したいところ等）を明確にしておく。	グループワーク 実習
15	ゴール型球技（平崎） ・ゲーム攻防の習熟度別教育法 受業総括（手嶋）	【事後学習】 授業の内容を振り返り、授業で取り扱ったゴール型球技種目の特性、必要な技能、その種目を指導する上で配慮すべき事項について個人ノートにまとめる。	グループワーク 実習

基本情報

科目名	野外活動
時間割コード	0440304201
ナンバリングコード	
開講所属	看護福祉学部鍼灸スポーツ学科
ターム・学期	2024年度 第1学期
曜限	他
開講区分	通年
単位数	1.0
学年	2
主担当教員	國木 孝治
科目区分	専門科目 鍼灸専門科目（総合）
必選区分	選択

担当教員情報

教員名
平崎 和雄、未定、國木 孝治

詳細情報

授業の目的・到達目標	本授業は 夏季実習（以下「アクアスポーツ実習」）と 秋季実習（以下「キャンプ実習」）の2実習で構成する。 【授業の目的】 1) 大自然の中で基礎的な知識や技術を学習し、生涯にわたり年齢・体力に応じた野外活動（アクアスポーツ・キャンプ）の楽しみ方を養う。 2) 幼・小・中・高等教育における自然体験活動（アクアスポーツ・キャンプ）の指導知識・技能を修得する。 3) アクアスポーツに関する安全教育や水泳管理、集団生活の実践的態度を体得する。 4) 自然や野外での活動のあり方を体験的に学び、時代に即した知識と技能を獲得する。 5) キャンピングや野外炊飯に関する安全管理、集団生活の実践的態度を体得する。
履修上の注意事項	本授業は アクアスポーツ実習と キャンプ実習の2実習で構成する。 ・中学校および高等学校保健体育免許取得要件科目 ・アスレチックトレーナー資格取得要件科目 ・健康運動指導士（健康運動実践指導者）資格取得希望者は履修が望ましい。 ・実技は、校外研修施設を利用した授業のため、別途費用（旅費・交通費用、器材レンタル費用等）がかかる。 ・第1回目の授業は、(1)4～6月期に、(2)履修者の他授業の空き時間に、履修者ガイダンス（履修者確認及び費用等の説明）を行うので、定期的にCampus Squareを確認し、当日の欠席が無いように注意すること。 ・実習に必要なもの（ウェア等）についてはガイダンス時にアナウンスするので、実習当日までに各自準備しておくこと。
評価方法	1) 授業に取り組む姿勢（学習意欲）：（20/100） 2) 野外活動（夏季実習）の知識と技能：（50/100） 3) 野外活動（秋季実習）の知識と技能：（30/100）
テキスト	必要無し（適宜資料を配布する）。
参考文献	・自然体験活動研究会編（2011）野外教育の理論と実践，杏林書院． ・自然体験活動研究会編（2011）野外教育における安全管理と安全学習，杏林書院． ・自然体験活動研究会編（2012）水辺の野外教育，杏林書院． ・自然体験活動研究会編（2012）障がいのある子どもの野外教育，杏林書院． ・自然体験活動研究会編（2014）冒険教育の理論と実践，杏林書院． ・日本海洋少年団連盟（2015）海の訓練ワークブック，成山堂書店． ・東正樹（2008）いちばんやさしいレクリエーションゲーム全集，成美堂出版． ・日本野外教育研究会編（1999）キャンプテキスト（改訂版），杏林書院． ・羽根田治（2019）基本のロープワーク，山と溪谷社． ・水野隆信（2019）ロープワーク，山と溪谷社． ・日本ライフセービング協会編（2019）ウォーターセーフティ教本，大修館書店． ・日本ライフセービング協会編（2018）サーフライフセービング教本（JRC蘇生ガイドライン2015準拠），大修館書店．
実務経験のある教員による授業の有無	有
実務経験・実務経験を活かした教育内容	・中学校及び高等学校勤務経験 ・日本ライフセービング協会認定ライフセービング指導員 ・日本水泳連盟認定基礎水泳指導員 ・日本キャンプ協会認定キャンプ指導員

詳細情報

アクティブ・ラーニング及びICTを取り入れた授業の実施	この授業では、自らが体を動かし運動実践を行うことで課題を見つけ解決したり、他者の運動を観察することで課題を発見したりする等、主体的・対話的で深い学びの実現を行う。また、講義（一部実技を含む）では、ICT教材を活用した効果的な学習場面を設定することによって、個別学習や協働学習の促進を目指す。
-----------------------------	---

授業計画

授業計画
授業1回目は授業ガイダンスを実施し、実習概要について案内する。 2～9回目に相当する授業は校外施設（青少年自然の家）にてアクアスポーツ実習を2泊3日で行い、10～17回目に相当する授業は校外施設（アクアドームくまもと）にてウィンタースポーツ実習を2日間（通い型）で行う。

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
1	授業ガイダンス	（事前） シラバスを確認しておくこと（1時間） （事後） 実習日程と他行事との調整、学習が必要と思われる知識・技能の確認等（1時間）	・授業ガイダンスの開催日時についてはCampusSquareで案内する。 ・ガイダンスでは、実習日程、実習地、実習費用のほか、授業の方法、到達目標、学習法について説明するので必ず出席のこと。
2	アクアスポーツ実習 ・ウォーターセーフティ	（事後） 習得した知識・技能の振り返り（～1時間）	グループワーク 実習
3	アクアスポーツ実習 ・オーシャンスポーツ(1)：パドル個人スポーツ（シーカヤック）	（事後） 習得した知識・技能の振り返り（～1時間）	グループワーク 実習
4	アクアスポーツ実習 ・オーシャンスポーツ(3)：パドル集団スポーツ（パドルボード）	（事後） 習得した知識・技能の振り返り（～1時間）	グループワーク 実習
5	アクアスポーツ実習 ・オーシャンスポーツ(2)：パドル集団スポーツ（ペーロンorカッター）	（事後） 習得した知識・技能の振り返り（～1時間）	グループワーク 実習
6	アクアスポーツ実習 ・溺者救助法（レスキューボード）	（事後） 習得した知識・技能の振り返り（～1時間）	グループワーク 実習
7	アクアスポーツ実習 ・溺者救助法（レスキューチューブ）	（事後） 習得した知識・技能の振り返り（～1時間）	グループワーク 実習
8	アクアスポーツ実習 ・溺者救助法（要救助者の運搬法）	（事後） 習得した知識・技能の振り返り（～1時間）	グループワーク 実習
9	アクアスポーツ実習 ・BLS（心肺蘇生法）	（事後） 習得した知識・技能の振り返り（～1時間）	グループワーク 実習
10	キャンプ実習 ・ロープワークテクニック	（事後） 習得した知識・技能の振り返り（～1時間）	グループワーク 実習
11	キャンプ実習 ・テントの設営法	（事後） 習得した知識・技能の振り返り（～1時間）	グループワーク 実習
12	キャンプ実習 ・バーナー・クッカーの使用法 ・ブッシュクラフト	（事後） 習得した知識・技能の振り返り（～1時間）	グループワーク 実習
13	キャンプ実習 ・野外炊飯	（事後） 習得した知識・技能の振り返り（～1時間）	グループワーク 実習
14	キャンプ実習 ・キャンプファイヤーの方法 ・野外レクリエーションの方法	（事後） 習得した知識・技能の振り返り（～1時間）	グループワーク 実習
15	まとめ：実習レポート		
16			
17			

授業計画

授業1回目は授業ガイダンスを実施し、実習概要について案内する。
2～9回目に相当する授業は校外施設（青少年自然の家）にてアクアスポーツ実習を2泊3日で行い、10～17回目に相当する授業は校外施設（アクアドームくまもと）にてウィンタースポーツ実習を2日間（通い型）で行う。

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			

基本情報

科目名	体育原理
時間割コード	0440452301
ナンバリングコード	
開講所属	看護福祉学部鍼灸スポーツ学科
ターム・学期	2024年度 第1学期
曜限	火 3
開講区分	第1学期
単位数	2.0
学年	3
主担当教員	國木 孝治
科目区分	卒業要件外の科目 要件外
必選区分	選択

担当教員情報

教員名
國木 孝治

詳細情報

授業の目的・到達目標	【目的】 文化現象としての体育・スポーツにおける問題を哲学的方法を用いて省察する。 体育・スポーツの概念、スポーツとコミュニケーション、遊戯論とスポーツ、ナショナリズム、政治とスポーツ等に焦点をあて、個人、集団をとりまく体育・スポーツ現象に対する学問的アプローチの方法を学ぶことにより、新しい学際的知見を積極的に取り入れる能力、社会的役割の変化へ対応できる自己研鑽力を身につけること、身体的・精神的・社会的存在としての体育・スポーツを理解することを目的とする。 【到達度目標】 ・体育とスポーツに関する理論を学習し、理解を深め、思考力を養うことができる。 ・論理的思考を身につけることができる。 ・専門用語を用いて、自分なりの考えを表明することができる。
履修上の注意事項	物事の原理・原則等に係る分野であるため、思考のプロセスが重要である。 授業前に講義テーマに関する文献を読んで授業に取り組み、授業後は獲得した知識と自分なりの思考で問いを発して復習に取り組むこと。
評価方法	【評価基準】 ・基礎的知識・技能（知識・技能）：25% ・授業内課題（思考力・判断力・表現力）：25% ・学習に取り組む姿勢（学びに向かう力・人間性）：25% ・授業内で定期的実施する学習状況の確認（課題の提出や小テスト等）：25% なお、レポート、小テスト等により、前回の授業を振り返るためのフィードバックを授業内に行う。
テキスト	特に指定しない。
参考文献	本授業用に開発した独自のテキストを配布するが、以下の図書を参考に予習・復習を行うと良い。 【参考書】 ・友添秀則・岡田美則著『教養としての体育原理（新版）』大週刊書店，2016． ・佐藤臣彦著『身体教育を哲学する』北樹出版，2013． ・体育原理専門分科会編『体育原理 運動の概念』不昧堂出版，1984． ・近藤良享著『スポーツ倫理』不昧堂出版，2012． ・J・ホイジンガ著（高橋英夫訳）『ホモ・ルーデンス』中央公論社，1993． ・R・カイヨワ著（多田・塚崎訳）『遊びと人間』講談社，1995． ・川谷茂樹著『スポーツ倫理学』ナカニシヤ出版，2013． ・H・レールス著『遊戯とスポーツ』玉川大学出版部，1987．
実務経験のある教員による授業の有無	有
実務経験・実務経験を活かした教育内容	中学校及び高等学校勤務経験、及びスポーツ施設（スタジアム）管理運営経験
アクティブ・ラーニング及びICTを取り入れた授業の実施	この授業では、各回において課題を出し、グループ学習を行ったり、翌週以降の授業で発表したりするような、主体的・対話的で深い学びの実現を行う。また、ICT教材を活用した効果的な学習場面を設定することによって、個別学習や協働学習の促進を目指す。加えて、各自が持参するPC等を活用した課題の作成や発表資料の作成等を行い、学校教育における1人1台端末に対応したIT教育の教材開発にも触れる。

授業計画

授業計画

本授業では、身体、体育、スポーツに関する哲学的アプローチについて理解することを目的とする。これまでの研究成果の一覧を理解することに留まらず、身体、体育、スポーツについての歴史的な理解を踏まえて現在の問題（これからの体育における学び、部活動問題、スポーツ指導者のあり方、スポーツにおける倫理）について意見を持つことを目的とする。

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
1	授業ガイダンス 本講義の目的、内容・評価等の説明、ほか	（事前） シラバスを読んで授業概要について理解しておく（2時間） （事後） ノートを整理し、講義内容を再確認しながらレポート課題に取り組む（2時間）	
2	体育原理とは何か 1．なぜ体育原理を学ぶのか 2．体育原理はどのような学問か	1．なぜ体育原理を学ぶのか 2．体育原理はどのような学問か （事前） 参考文献等を読み、わからない事項について下調べしておくこと（2時間） （事後） ノートを整理し、講義内容を再確認しながらレポート課題に取り組む（2時間）	
3	体育・スポーツ理念の変遷 1．体育理念の変遷 2．体育とスポーツは何が違うのか	1．体育理念の変遷 2．体育とスポーツは何が違うのか 3．運動のもつ可能性 について、 （事前） 参考文献等を読み、わからない事項について下調べしておくこと（2時間） （事後） ノートを整理し、講義内容を再確認しながらレポート課題に取り組む（2時間）	ディスカッション・ディベート グループワーク
4	体育・スポーツにおける人間形成 1．体育における人間形成 2．体育とフェアプレイ：フェアプレイ	1．体育における人間形成 2．体育とフェアプレイ：フェアプレイは有効か について、 （事前） 参考文献等を読み、わからない事項について下調べしておくこと（2時間） （事後） ノートを整理し、講義内容を再確認しながらレポート課題に取り組む（2時間）	ディスカッション・ディベート グループワーク
5	体育・スポーツと身体形成 1．身体形成とは何か 2．身体からみた体育の可能性	1．身体形成とは何か 2．身体からみた体育の可能性 について、 （事前） 参考文献等を読み、わからない事項について下調べしておくこと（2時間） （事後） ノートを整理し、講義内容を再確認しながらレポート課題に取り組む（2時間）	ディスカッション・ディベート グループワーク
6	プレイが生み出す体育の可能性 1．プレイ論 2．体育で競争をどのように位置づけるか	1．プレイ論 2．体育で競争をどのように位置づけるか について、 （事前） 参考文献等を読み、わからない事項について下調べしておくこと（2時間） （事後） ノートを整理し、講義内容を再確認しながらレポート課題に取り組む（2時間）	ディスカッション・ディベート グループワーク
7	技術指導からみた体育・スポーツ 1．技術指導からみた体育 2．体育と指導者、体育教師とコーチ	1．技術指導からみた体育 2．体育と指導者：体育教師とコーチ、何が違うのか 3．運動部活動の意義と課題 について、 （事前） 参考文献等を読み、わからない事項について下調べしておくこと（2時間） （事後） ノートを整理し、講義内容を再確認しながらレポート課題に取り組む（2時間）	ディスカッション・ディベート グループワーク

授業計画

本授業では、身体、体育、スポーツに関する哲学的アプローチについて理解することを目的とする。これまでの研究成果の一覧を理解することに留まらず、身体、体育、スポーツについての歴史的理解を踏まえて現在の問題（これからの体育における学び、部活動問題、スポーツ指導者のあり方、スポーツにおける倫理）について意見を持つことを目的とする。

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
8	子どもからみた体育の存在意義 1．なぜ子どもに体育は必要なのか 2．社会変化と今後の体育	1．なぜ子どもに体育は必要なのか 2．社会変化と今後の体育 について、 （事前） 参考文献等を読み、わからない事項について下調べしておくこと（2時間） （事後） ノートを整理し、講義内容を再確認しながらレポート課題に取り組む（2時間）	ディスカッション・ディベート グループワーク
9	スポーツ文化論・スポーツ社会学	・近代スポーツの成立と発展 ・メディア化するスポーツ ・消費文化としてのスポーツ ・スポーツと政治・権力 ・スポーツとジェンダー ・スポーツと教育 ・スポーツと地域社会 等について、 （事前） 参考文献等を読み、わからない事項について下調べしておくこと（2時間） （事後） ノートを整理し、講義内容を再確認しながらレポート課題に取り組む（2時間）	ディスカッション・ディベート グループワーク
10	遊戯論（1） ホイジンガ『ホモ・ルーデンス』	ホイジンガ『ホモ・ルーデンス』について、 （事前） 参考文献等を読み、わからない事項について下調べしておくこと（2時間） （事後） ノートを整理し、講義内容を再確認しながらレポート課題に取り組む（2時間）	ディスカッション・ディベート グループワーク
11	遊戯論（2） カイヨワの遊戯論『遊びと人間』	カイヨワの遊戯論『遊びと人間』について、 （事前） 参考文献等を読み、わからない事項について下調べしておくこと（2時間） （事後） ノートを整理し、講義内容を再確認しながらレポート課題に取り組む（2時間）	ディスカッション・ディベート グループワーク
12	遊戯論（3） H・レールス『遊戯とスポーツ』	H・レールス『遊戯とスポーツ』について、 （事前） 参考文献等を読み、わからない事項について下調べしておくこと（2時間） （事後） ノートを整理し、講義内容を再確認しながらレポート課題に取り組む（2時間）	ディスカッション・ディベート グループワーク
13	スポーツと思想（1） ・オリンピック ・ナショナリズム	オリンピックやナショナリズムについて、 （事前） 参考文献等を読み、わからない事項について下調べしておくこと（2時間） （事後） ノートを整理し、講義内容を再確認しながらレポート課題に取り組む（2時間）	ディスカッション・ディベート グループワーク
14	スポーツと思想（2） ・アマチュアリズム ・スポーツの政治的中立性	アマチュアリズム、スポーツの政治的中立性について、 （事前） 参考文献等を読み、わからない事項について下調べしておくこと（2時間） （事後） ノートを整理し、講義内容を再確認しながらレポート課題に取り組む（2時間）	ディスカッション・ディベート グループワーク

授業計画

本授業では、身体、体育、スポーツに関する哲学的アプローチについて理解することを目的とする。これまでの研究成果の一覧を理解することに留まらず、身体、体育、スポーツについての歴史的 Understanding を踏まえて現在の問題（これからの体育における学び、部活動問題、スポーツ指導者のあり方、スポーツにおける倫理）について意見を持つことを目的とする。

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
15	講義全体のまとめ スポーツ、体育、身体 の思想	（事前） これまでの授業について、忘れてしまったこと等についてリフレクションする（2時間） （事後） ノートを整理し、講義内容を再確認しながらレポート課題に取り組む（2時間）	

基本情報

科目名	スポーツ心理学
時間割コード	0440110401
ナンバリングコード	
開講所属	看護福祉学部鍼灸スポーツ学科
ターム・学期	2024年度 第2学期
曜限	他
開講区分	第2学期
単位数	2.0
学年	3
主担当教員	藤原 大樹
科目区分	共通科目 人間と生活の理解
必選区分	選択

担当教員情報

教員名
藤原 大樹

詳細情報

授業の目的・到達目標	運動・スポーツ現場で働く人間にとって、運動・スポーツ場面における人間行動の理解は必須である。本科目の目的は、運動・スポーツ行動の心理的メカニズムについて理解を深めることである。学修者は運動・スポーツに関連する心理学の基礎理論と現場での応用事例について説明できるようになる。
履修上の注意事項	理解度を確保するために講義内で小テストを実施します。
評価方法	試験50% 運動実践レポート10% 講義レポート20% 小テスト20% 試験及び小テストへのフィードバックはオンラインで行う。 運動実践レポート及び講義レポートへのフィードバックは提出翌週の授業時に行う。
テキスト	なし
参考文献	スポーツ・運動・パフォーマンスの心理学：高見和至 編（2016）化学同人 スポーツ心理学事典：日本スポーツ心理学会編（2008）大修館書店
実務経験のある教員による授業の有無	無
実務経験・実務経験を活かした教育内容	
アクティブ・ラーニング及びICTを取り入れた授業の実施	アクティブラーニング：グループワーク、心理データの測定とレポート作成 ICT：Formsを用いて理解度テスト・講義レポートを実施する。

授業計画

授業計画
予習：各回の講義におけるキーワードについて予習しておくこと（120分） 復習：各回の講義において提示されるテーマについて講義レポートを作成し、理解度テストを受けること（120分）

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
1	オリエンテーション・運動・スポーツ心理学とは	講義レポート、理解度テスト	
2	運動・スポーツとパーソナリティ：競技者のパーソナリティ	講義レポート、理解度テスト	
3	スポーツと動機づけ：競技動機、達成動機、原因帰属、目標設定	講義レポート、理解度テスト	
4	運動・スポーツスキルの獲得：運動学習理論、技能評価・フィードバック	講義レポート、理解度テスト	
5	スポーツ集団における集団力学：集団課程、凝集性、チームビルディング	講義レポート、理解度テスト	
6	リーダーシップ：PM理論、フォロワーシップ	講義レポート、理解度テスト	
7	スポーツキャリア：参加・継続・離脱・バーンアウト	講義レポート、理解度テスト	
8	メンタルトレーニング：MTとは、基本的なスキルの紹介	講義レポート、理解度テスト	
9	スポーツ傷害と心理的サポート：スポーツ傷害、ストレス、リハビリテーション	講義レポート、理解度テスト	

授業計画

予習：各回の講義におけるキーワードについて予習しておくこと（120分）

復習：各回の講義において提示されるテーマについて講義レポートを作成し、理解度テストを受けること（120分）

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
10	スポーツと攻撃性：暴力行為、逸脱行為、観客の暴動	講義レポート、理解度テスト	
11	運動・スポーツの心理的効果：QOL、自己概念、ストレスマネジメント	講義レポート、理解度テスト	
12	運動実習：ストレス測定とレポート作成	運動実習レポートの作成	
13	身体活動プロモーション：運動行動の決定因、介入モデル	講義レポート、理解度テスト	
14	身体活動プロモーション：行動変容理論	講義レポート、理解度テスト	
15	授業のまとめ	期末テストの準備	

基本情報

科目名	スポーツ経営学
時間割コード	0440305201
ナンバリングコード	
開講所属	看護福祉学部鍼灸スポーツ学科
ターム・学期	2024年度 第2学期
曜限	他
開講区分	第2学期
単位数	2.0
学年	3
主担当教員	松村 勇治
科目区分	専門科目 鍼灸専門科目（総合）
必選区分	選択

担当教員情報

教員名
松村 勇治

詳細情報

授業の目的・到達目標	【目的】本授業では、学修者がスポーツ経営学の学問領域における知を基軸としスポーツに関する組織や制度を理解することで、スポーツ組織の力を高めスポーツの環境整備に必要な対策を創造できる能力を養うことを目的とする。 【到達目標】1) スポーツ経営学の理論体系を説明できる 2) 自身の興味関心のある個別スポーツ組織におけるマネジメント方策を説明できる。 3) グループワークにおいて学習した知識を用いて議論・プレゼンができる。
履修上の注意事項	授業前は、教科書等の関連単語等についてインターネット等で意味の予習をすること。毎回、学んだことについてレポートを提出お願いします。
評価方法	2/3以上の出席を必須 ・自主的学習態度及び出席時学習態度・・・50% ・課題レポート・・・30% ・試験・・・20% 以上の総合評価（再試験は実施しない）
テキスト	体育・スポーツ経営学（大修館書店） Reference Book（JSP0：日本スポーツ協会）
参考文献	スポーツ事故対策マニュアル（体育施設出版）
実務経験のある教員による授業の有無	有
実務経験・実務経験を活かした教育内容	熊本市の公設社会体育施設・文化施設等11施設の管理運営を行っている。
アクティブ・ラーニング及びICTを取り入れた授業の実施	スポーツ種目の実技実習に取組む。

授業計画

授業計画
1. ガイダンス 2. 安全なスポーツ環境の構築（予防）と問題発生時の対処について説明できる 3. 「スポーツ宣言日本」におけるスポーツの意義と価値について説明できる 4. スポーツの定義について説明できる 5. 行動としてのスポーツについて説明できる 6. スポーツと健康について説明できる 7. スポーツ指導者の役割について説明できる 8. ジュニア期のコーチングの留意点について説明できる 9. 運動部活動でのコーチングの留意点について説明できる 10. スポーツ組織の持続可能性について説明できる 11. 地域におけるスポーツクラブとしての「スポーツ少年団」について説明できる 12. スポーツ少年団の活動分野と内容について説明できる 13. 日本スポーツ少年団と総合型スポーツクラブとの連携・協議について説明できる 14. スポーツ組織の特性について説明できる 15. 障害者スポーツ指導者の育成について説明できる

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
-----	--------	---------	----

授業計画

1. ガイダンス
2. 安全なスポーツ環境の構築（予防）と問題発生時の対処について説明できる
3. 「スポーツ宣言日本」におけるスポーツの意義と価値について説明できる
4. スポーツの定義について説明できる
5. 行動としてのスポーツについて説明できる
6. スポーツと健康について説明できる
7. スポーツ指導者の役割について説明できる
8. ジュニア期のコーチングの留意点について説明できる
9. 運動部活動でのコーチングの留意点について説明できる
10. スポーツ組織の持続可能性について説明できる
11. 地域におけるスポーツクラブとしての「スポーツ少年団」について説明できる
12. スポーツ少年団の活動分野と内容について説明できる
13. 日本スポーツ少年団と総合型スポーツクラブとの連携・協議について説明できる
14. スポーツ組織の特性について説明できる
15. 障害者スポーツ指導者の育成について説明できる

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
1	ガイダンス	確認	
2	安全なスポーツ環境の構築（予防）と問題発生時の対処について説明できる	教科書の関連内容の事前学習及び授業の復習をそれぞれ120分行うこと	1時間説明 30分レポート作成
3	「スポーツ宣言日本」におけるスポーツの意義と価値について説明できる	教科書の関連内容の事前学習及び授業の復習をそれぞれ120分行うこと	1時間説明 30分レポート作成
4	スポーツの定義について説明できる	教科書の関連内容の事前学習及び授業の復習をそれぞれ120分行うこと	1時間説明 30分レポート作成
5	行動としてのスポーツについて説明できる	教科書の関連内容の事前学習及び授業の復習をそれぞれ120分行うこと	1時間説明 30分レポート作成
6	スポーツと健康について説明できる	教科書の関連内容の事前学習及び授業の復習をそれぞれ120分行うこと	1時間説明 30分レポート作成
7	スポーツ指導者の役割について説明できる	教科書の関連内容の事前学習及び授業の復習をそれぞれ120分行うこと	1時間説明 30分レポート作成
8	ジュニア期のコーチングの留意点について説明できる	教科書の関連内容の事前学習及び授業の復習をそれぞれ120分行うこと	1時間説明 30分レポート作成
9	運動部活動でのコーチングの留意点について説明できる	教科書の関連内容の事前学習及び授業の復習をそれぞれ120分行うこと	1時間説明 30分レポート作成
10	スポーツ組織の持続可能性について説明できる	教科書の関連内容の事前学習及び授業の復習をそれぞれ120分行うこと	1時間説明 30分レポート作成
11	地域におけるスポーツクラブとしての「スポーツ少年団」について説明できる	教科書の関連内容の事前学習及び授業の復習をそれぞれ120分行うこと	1時間説明 30分レポート作成
12	スポーツ少年団の活動分野と内容について説明できる	教科書の関連内容の事前学習及び授業の復習をそれぞれ120分行うこと	1時間説明 30分レポート作成
13	日本スポーツ少年団と総合型スポーツクラブとの連携・協議について説明できる	教科書の関連内容の事前学習及び授業の復習をそれぞれ120分行うこと	1時間説明 30分レポート作成
14	スポーツ組織の特性について説明できる	教科書の関連内容の事前学習及び授業の復習をそれぞれ120分行うこと	1時間説明 30分レポート作成
15	障害者スポーツ指導者の育成について説明できる	教科書の関連内容の事前学習及び授業の復習をそれぞれ120分行うこと	1時間説明 30分レポート作成

基本情報

科目名	学校保健
時間割コード	0440451101
ナンバリングコード	
開講所属	看護福祉学部鍼灸スポーツ学科
ターム・学期	2024年度 第 1 学期
曜限	火 2
開講区分	第 1 学期
単位数	2.0
学年	3
主担当教員	松崎 美枝
科目区分	卒業要件外の科目 要件外
必選区分	選択

担当教員情報

教員名
松崎 美枝

詳細情報

授業の目的・到達目標	本科目の履修を通して、基礎から積み上げた体系的な教養を身につけ、論理的・学際的思考力を涵養しつつ、課題を探求し問題を解決できる能力を養う。 児童生徒の発育・発達、健康、そして学校教育法につながる指導要領等の教育の基礎を把握するとともに、児童生徒の実態から保健教育、保健管理、組織活動の諸活動等を考える。これら学校保健活動の計画と組織を教育計画と学校組織との関連でとらえ、教育の中の学校保健の全貌を述べることができる。
履修上の注意事項	授業の最後に次の授業内容を予告するので、その内容について調べておく(事前120分)。授業の復習を行うこと(事後120分) 毎回、授業の振り返りと質問等を最後にかかせるが、前時の質問に対しては授業の冒頭に答える。
評価方法	試験70% レポート30%により評価する
テキスト	学校保健ハンドブック 第8次改訂 教員養成系大学保健協議会編 ぎょうせい
参考文献	新訂版学校保健実務必携(第5次改訂版) 第一法規
実務経験のある教員による授業の有無	有
実務経験・実務経験を活かした教育内容	養護教諭や指導主事等の経験から、実態に応じた学校保健活動が展開できる基礎力が身に付くよう、具体的な事例を交えた授業を展開する。
アクティブ・ラーニング及びICTを取り入れた授業の実施	グループワーク・プレゼンテーション

授業計画

授業計画
授業の最後に次の授業内容を予告するので、その内容について調べておく(120分)。授業の復習を行うこと(120分) 毎回、授業の振り返りと質問等を最後に書かせ、前時の質問に対しては授業の最初に答える。

No.	内容(担当)	事前・事後学修	備考
1	学校保健概論・・学校保健と関連法、学校保健の目的、学校保健の構造	事前(120分)内容に関わる部分について教科書を読み、分からないところを調べる 事後(120分)当該授業に関する簡単な確認レポートを課すので復習を行う	
2	学校保健概論・・学校保健の歴史	事前(120分)内容に関わる部分について教科書を読み、分からないところを調べる 事後(120分)当該授業に関する簡単な確認レポートを課すので復習を行う	

授業計画

授業の最後に次の授業内容を予告するので、その内容について調べておく（120分）。授業の復習を行うこと（120分）
 毎回、授業の振り返りと質問等を最後に書かせ、前時の質問に対しては授業の最初に答える。

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
3	学校保健組織活動・・学校保健関係者と 各々の職務、学校保健組織と運営、関連 組織	事前（120分）内容に関わる部分について 教科書を読み、分からないところを調べ る 事後（120分）当該授業に関する簡単な確 認レポートを課すので復習を行う	
4	学校保健計画・・学校教育目標との関連 、保健室経営との関連	事前（120分）内容に関わる部分について 教科書を読み、分からないところを調べ る 事後（120分）当該授業に関する簡単な確 認レポートを課すので復習を行う	
5	学校保健の対象・・児童生徒の発育発達 の現状と課題（児童生徒の健康診断結果 ―発育の状況等を含む）	事前（120分）内容に関わる部分について 教科書を読み、分からないところを調べ る 事後（120分）当該授業に関する簡単な確 認レポートを課すので復習を行う	
6	学校保健の対象・・児童生徒の疾病異常 、体力の現状と課題（児童生徒の健康診 断結果―疾病異常の状況等）	事前（120分）内容に関わる部分について 教科書を読み、分からないところを調べ る 事後（120分）当該授業に関する簡単な確 認レポートを課すので復習を行う	
7	学校保健の対象・・心の健康問題、精神 保健の現状と課題（不登校、保健室登校 、いじめ、自殺、精神疾患等）	事前（120分）内容に関わる部分について 教科書を読み、分からないところを調べ る 事後（120分）当該授業に関する簡単な確 認レポートを課すので復習を行う	
8	学校保健活動・・保健管理：領域側面、 意義、方法	事前（120分）内容に関わる部分について 教科書を読み、分からないところを調べ る 事後（120分）当該授業に関する簡単な確 認レポートを課すので復習を行う	
9	学校保健活動・・保健管理：健康観察、 健康相談	事前（120分）内容に関わる部分について 教科書を読み、分からないところを調べ る 事後（120分）当該授業に関する簡単な確 認レポートを課すので復習を行う	
10	学校保健活動・・保健管理：健康診断、 保健調査	事前（120分）内容に関わる部分について 教科書を読み、分からないところを調べ る 事後（120分）当該授業に関する簡単な確 認レポートを課すので復習を行う	
11	学校保健活動・・保健管理：感染症予防	事前（120分）内容に関わる部分について 教科書を読み、分からないところを調べ る 事後（120分）当該授業に関する簡単な確 認レポートを課すので復習を行う	
12	学校保健活動・・保健管理：学校環境衛 生	事前（120分）内容に関わる部分について 教科書を読み、分からないところを調べ る 事後（120分）当該授業に関する簡単な確 認レポートを課すので復習を行う	

授業計画

授業の最後に次の授業内容を予告するので、その内容について調べておく（120分）。授業の復習を行うこと（120分）
 毎回、授業の振り返りと質問等を最後に書かせ、前時の質問に対しては授業の最初に答える。

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
13	学校保健活動・・・安全管理：学校安全と危機管理、救急処置	事前（120分）内容に関わる部分について教科書を読み，分からないところを調べる 事後（120分）当該授業に関する簡単な確認レポートを課すので復習を行う	
14	学校保健活動・・・保健教育：学校における保健教育の考え方	事前（120分）内容に関わる部分について教科書を読み，分からないところを調べる 事後（120分）当該授業に関する簡単な確認レポートを課すので復習を行う	
15	学校保健活動・・・性教育、薬物乱用防止教育、食育　がん教育	事前（120分）内容に関わる部分について教科書を読み，分からないところを調べる 事後（120分）当該授業に関する簡単な確認レポートを課すので復習を行う	

基本情報

科目名	精神保健
時間割コード	0440451201
ナンバリングコード	
開講所属	看護福祉学部鍼灸スポーツ学科
ターム・学期	2024年度 第 1 学期
曜限	火 1
開講区分	第 1 学期
単位数	2.0
学年	3
主担当教員	水間 宗幸
科目区分	卒業要件外の科目 要件外
必選区分	選択

担当教員情報

教員名
水間 宗幸、平川 泰士

詳細情報

授業の目的・到達目標	1 精神の健康についての基本的考え方と精神保健学の役割について説明できるようになる。 2 精神保健を維持・増進するために機能している専門機関や関係職種の役割と連携について基礎的知識を備える。
履修上の注意事項	予習復習が必要。特に次回に触れる内容について、少なくとも事前にテキストを一読すること。復習時にはキーワードを自分のことばで説明できるようにしておくこと。予習120分、復習120分を目安とする。
評価方法	試験による評価（100％）。なお希望者には個別に評価内容を伝える。
テキスト	最新 精神保健福祉士養成講座 2「現代の精神保健の課題と支援」（2021） 一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集 中央法規
参考文献	
実務経験のある教員による授業の有無	有
実務経験・実務経験を活かした教育内容	水間宗幸：2011年12月より、非常勤心理士として精神科病院で発達障害を持つ子どもとその家族を対象に発達相談を行っている（現在に至る）。
アクティブ・ラーニング及びICTを取り入れた授業の実施	講義内容および必要資料を、適宜Canpus Squareにアップロードする。 必要に応じて適宜グループワークを実施する。

授業計画

授業計画
該当するデータはありません

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
1	精神保健の概要（担当：水間）	事前学習として各回の内容についてテキストや事前配布資料等を確認しておくこと（120分）。 講義終了後は資料やノートを整理し内容を確認する復習をすること（120分）。	
2	精神保健の歴史と現代における意義・課題（担当：水間）	事前学習として各回の内容についてテキストや事前配布資料等を確認しておくこと（120分）。 講義終了後は資料やノートを整理し内容を確認する復習をすること（120分）。	
3	社会構造の変化と新しい健康観（担当：水間）	事前学習として各回の内容についてテキストや事前配布資料等を確認しておくこと（120分）。 講義終了後は資料やノートを整理し内容を確認する復習をすること（120分）。	
4	ライフサイクルと精神の健康（出生前～思春期）（担当：水間）	事前学習として各回の内容についてテキストや事前配布資料等を確認しておくこと（120分）。 講義終了後は資料やノートを整理し内容を確認する復習をすること（120分）。	

授業計画

該当するデータはありません

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
5	ライフサイクルと精神の健康（青年期～老年期）（担当：水間）	事前学習として各回の内容についてテキストや事前配布資料等を確認しておくこと（120分）。 講義終了後は資料やノートを整理し内容を確認する復習をすること（120分）。	
6	ストレスと精神の健康（担当：水間）	事前学習として各回の内容についてテキストや事前配布資料等を確認しておくこと（120分）。 講義終了後は資料やノートを整理し内容を確認する復習をすること（120分）。	
7	生活習慣と精神の健康（担当：水間）	事前学習として各回の内容についてテキストや事前配布資料等を確認しておくこと（120分）。 講義終了後は資料やノートを整理し内容を確認する復習をすること（120分）。	
8	精神の健康、精神疾患、身体疾患に由来する障害（担当：水間）	事前学習として各回の内容についてテキストや事前配布資料等を確認しておくこと（120分）。 講義終了後は資料やノートを整理し内容を確認する復習をすること（120分）。	
9	発達障害と精神保健（担当：水間）	事前学習として各回の内容についてテキストや事前配布資料等を確認しておくこと（120分）。 講義終了後は資料やノートを整理し内容を確認する復習をすること（120分）。	
10	うつ病と自殺防止対策（担当：水間）	事前学習として各回の内容についてテキストや事前配布資料等を確認しておくこと（120分）。 講義終了後は資料やノートを整理し内容を確認する復習をすること（120分）。	
11	現代社会を取り巻く諸相と精神保健（長寿・認知症・少子化を巡って）（担当：水間）	事前学習として各回の内容についてテキストや事前配布資料等を確認しておくこと（120分）。 講義終了後は資料やノートを整理し内容を確認する復習をすること（120分）。	
12	精神の健康に関する心的態度（担当：水間）	事前学習として各回の内容についてテキストや事前配布資料等を確認しておくこと（120分）。 講義終了後は資料やノートを整理し内容を確認する復習をすること（120分）。	
13	精神保健に関する予防の概念と対象（担当：水間）	事前学習として各回の内容についてテキストや事前配布資料等を確認しておくこと（120分）。 講義終了後は資料やノートを整理し内容を確認する復習をすること（120分）。	
14	精神保健に関する国、都道府県、市町村、団体などの役割と連携（担当：平川）	事前学習として各回の内容についてテキストや事前配布資料等を確認しておくこと（120分）。 講義終了後は資料やノートを整理し内容を確認する復習をすること（120分）。	
15	精神保健に関する専門職種（担当：水間）	事前学習として各回の内容についてテキストや事前配布資料等を確認しておくこと（120分）。 講義終了後は資料やノートを整理し内容を確認する復習をすること（120分）。	

基本情報

科目名	発育発達論
時間割コード	0440305101
ナンバリングコード	
開講所属	看護福祉学部鍼灸スポーツ学科
ターム・学期	2024年度 第1学期
曜限	水 3
開講区分	第1学期
単位数	2.0
学年	2
主担当教員	藤原 大樹
科目区分	専門科目 鍼灸専門科目（総合）
必選区分	選択

担当教員情報

教員名
藤原 大樹

詳細情報

授業の目的・到達目標	本科目の目的は、ジュニア、高齢者、女性、障害者など様々な対象に合わせたスポーツ指導を実施するために必要な発育発達に関する知識を深めることである。学修者は、ジュニア期の身体的・心理的特徴、スポーツ傷害、トレーニング方法、また中高年、女性、障害者の特徴を考慮した運動プログラムの重要性について説明できるようになる。
履修上の注意事項	理解度を確認するために講義内で小テストを実施します。
評価方法	期末試験50% 講義レポート14% 小テスト36% 期末試験の再試験は実施しない。 期末試験及び小テストのフィードバックはオンラインで行う。 講義レポートへのフィードバックは提出翌週の授業時に行う。
テキスト	なし
参考文献	発育・発達への科学的アプローチ：藤井勝紀（2007）三恵社 子どもの発育発達と健康：青柳領（2006）ナカニシヤ出版
実務経験のある教員による授業の有無	無
実務経験・実務経験を活かした教育内容	
アクティブ・ラーニング及びICTを取り入れた授業の実施	アクティブラーニング：アダプテッドスポーツ演習を実施する。 ICT：Formsを用いて理解度テストを実施する、

授業計画

授業計画
予習：各回の講義におけるキーワードについて予習しておくこと（120分） 復習：各回の講義において提示されるテーマについての理解度テスト、講義レポートを作成すること（120分）

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
1	オリエンテーション、発育発達とは、遺伝と環境	理解度テスト、講義レポート	
2	発育発達の基礎、トレーニングの至適年齢、生涯スポーツ	理解度テスト、講義レポート	
3	乳幼児期：身体的特徴、心理的特徴、運動発達	理解度テスト、講義レポート	
4	青少年期：身体的特徴、心理的特徴	理解度テスト、講義レポート	
5	青少年期：運動発達、体力要素	理解度テスト、講義レポート	
6	子どもの運動・身体活動、意義・恩恵、ジュニア期におけるコーチング	理解度テスト、講義レポート	
7	発育発達とスポーツ傷害、子どものスポーツ傷害予防	理解度テスト、講義レポート	
8	中高年者：身体的特徴・心理的特徴、加齢	理解度テスト、講義レポート	
9	中高年者：運動・スポーツの意義・恩恵、運動指導	理解度テスト、講義レポート	
10	女性：男女差、女性アスリート特有のスポーツ障害と対策	理解度テスト、講義レポート	

授業計画

予習：各回の講義におけるキーワードについて予習しておくこと（120分）

復習：各回の講義において提示されるテーマについての理解度テスト、講義レポートを作成すること（120分）

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
11	女性：ジェンダーとステレオタイプ、映画「プリティリーグ」	理解度テスト、講義レポート	
12	アダプテッドスポーツ：障害の定義と種類、アダプテッドスポーツの現状	理解度テスト、講義レポート	
13	アダプテッドスポーツ：アダプテッドスポーツ実習	理解度テスト、講義レポート	
14	アダプテッドスポーツ：福祉から競技へ、映画「マダーボール」	理解度テスト、講義レポート	
15	授業のまとめ	期末テストの準備	

基本情報

科目名	救急対応
時間割コード	0450320301
ナンバリングコード	A 13021-LS-17
開講所属	看護福祉学部鍼灸スポーツ学科
ターム・学期	2024年度 第 2 学期
曜限	他
開講区分	第 2 学期
単位数	2.0
学年	1
主担当教員	井手 裕子
科目区分	専門科目 鍼灸専門科目（保健）
必選区分	必修

担当教員情報

教員名
井手 裕子、山本 秀幸

詳細情報

授業の目的・到達目標	本科目では、JSP0-ATの役割における「救急対応」の位置づけを理解したうえで、医療資格保持者に引き継ぐための現場で出来る最高レベルの救急対応ができる実践的な知識、態度や技術を学ぶ。緊急事態が発生した際の対応方法や適切な救急対応の手順を理解し、緊急性を判断するための的確な方法とその後の対応が実践できるようになることをねらいとする。学修者は、事故発生時の一連の初期評価の手順が説明でき、緊急性を判断するための的確な方法を活用し、JSP0-ATの役割における救急対応ならびに重傷度に応じた体位管理・保温・運搬が実践できるようになる。 創傷・出血、挫傷、骨折・脱臼に対する救急対応を実践できるようになる。 スポーツにおける脳振盪に対する救急対応、頭部・頸部・脊椎における重傷外傷への救急対応を実践できるようになる。 心停止、労作性熱中症に対する救急対応ならびにスポーツ活動時にみられる内科的疾患に対する救急対応を実践できるようになる。
履修上の注意事項	実習に際しては適した服装で受講するようにすること
評価方法	定期試験70%、課題レポート30%
テキスト	公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト第5巻 救急対応 日本スポーツ協会
参考文献	赤十字救急法基礎講習（7版）日本赤十字 赤十字救急法講習（15版）日本赤十字
実務経験のある教員による授業の有無	有
実務経験・実務経験を活かした教育内容	
アクティブ・ラーニング及びICTを取り入れた授業の実施	Mentimeter（メンチメーター）などのツールを活用し、学生がリアルタイムで講義に参加できより活発な意見交換や発言ができるような環境づくりを実施する

授業計画

授業計画
該当するデータはありません

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
1	1．スポーツ現場での外傷・障害の評価とその手順 初期評価	事前学修60分・事後学修60分	
2	2．スポーツ現場での外傷・障害の評価とその手順 体位管理と保温	事前学修60分・事後学修60分	
3	3．スポーツ現場での外傷・障害の評価とその手順 搬送法	事前学修60分・事後学修60分	
4	4．外傷時の救急対応 創傷・出血	事前学修60分・事後学修60分	
5	5．外傷時の救急対応 創傷・出血	事前学修60分・事後学修60分	
6	6．外傷時の救急対応 打撲・捻挫・肉ばなれ	事前学修60分・事後学修60分	
7	7．外傷時の救急対応 打撲・捻挫・肉ばなれ	事前学修60分・事後学修60分	
8	8．外傷時の救急対応 打撲・捻挫・肉ばなれ	事前学修60分・事後学修60分	
9	9．外傷時の救急対応 骨折・脱臼	事前学修60分・事後学修60分	

授業計画

該当するデータはありません

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
10	1 0 . 外傷時の救急対応 骨折・脱臼	事前学修60分・事後学修60分	
11	1 1 . 内科的疾患に対する救急対応 心停止	事前学修60分・事後学修60分	
12	1 2 . 内科的疾患に対する救急対応 心停止	事前学修60分・事後学修60分	
13	1 3 . 内科的疾患に対する救急対応 熱中症	事前学修60分・事後学修60分	
14	1 4 . 内科的疾患に対する救急対応 熱中症	事前学修60分・事後学修60分	
15	1 5 . 内科的疾患に対する救急対応 スポーツでよく見られる内科的疾患	事前学修60分・事後学修60分	

基本情報

科目名	スポーツ社会学
時間割コード	0440111101
ナンバリングコード	
開講所属	看護福祉学部鍼灸スポーツ学科
ターム・学期	2024年度 第2学期
曜限	他
開講区分	第2学期
単位数	2.0
学年	3
主担当教員	國木 孝治
科目区分	共通科目 人間と生活の理解
必選区分	選択

担当教員情報

教員名
國木 孝治

詳細情報

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 ・基礎から積み上げた体系的な教養を身につけたうえで、幅広い教養と高い倫理観・責任感を備え、論理的・学際的思考力を涵養しつつ、課題を探究し問題を解決できる能力を身につけること。 ・過去から現在に至る体育・スポーツの諸問題及び課題について検討し、現代社会における体育・スポーツの社会的機能・役割について理解を深めること。 ・生涯スポーツ及び学校教育における体育・スポーツに関する身近な問題について、その社会的な背景を理解し、望まれる姿を模索するために必要な社会学的な基礎知識を獲得すること。 【到達目標】 (知識) ・学校体育とその教育における基礎的なものの見方・考え方を身に付けることができる。 ・社会体育・スポーツとその教育における基礎的なものの見方・考え方を身に付けることができる。 ・健康やスポーツに関する1)2)を含んだ幅広いものの見方・考え方を身に付けることができる。 (技能) ・学校体育に関する資料・情報を収集し、関連したテーマにまとめたり、批判的に検討できる。 ・社会体育・スポーツに関する資料・情報を収集し、関連したテーマにまとめたり、批判的に検討できる。 ・健康やスポーツに関する諸問題に関心を持ち、関連したテーマにまとめたり、批判的に検討できる。 【ディプロマポリシーとの関連】 (全学DP) ・「こころ」豊かな人間性を培い、生涯に亘って専門性を追求し自己研鑽に努める能力を養う。 ・基礎から積み上げた体系的な教養を身につけ、論理的・学際的思考力を涵養しつつ、課題を探究し問題を解決できる能力を養う。 (学科DP) ・人間を身体的・精神的・社会的存在として統合的に理解することができる。 ・科学的根拠に基づいた論理的思考と科学的に実践する方法論を身につけている。
履修上の注意事項	・講義の展開が構造的に組み立てられているので、欠席しないように注意すること。 ・授業前に講義テーマに関連する情報を収集して授業に臨み、授業後は自らの情報と講義内容を関連づけて復習をすること。
評価方法	【評価基準】 ・学習意欲(姿勢・ノート力等):40% ・レポート(提出度・考察力等):60% 授業毎にレポートを課し、授業内容の理解及び授業テーマに対する思考・考察について評価し、フィードバックを行う。
テキスト	各回、配布資料を用意するので必要ない。

詳細情報

参考文献	以下、予習・復習にあたる参考図書を紹介する。 ・森川貞夫・佐伯聡夫（1998）スポーツ社会学講義，大修館書店． ・森川貞夫・依田充代（2001）今日からはじめるスポーツ社会学，共栄出版． ・依田充代（2004）改訂スポーツ社会学 - 歴史から学ぶスポーツの未来 - ，共栄出版． ・高橋明（2004）障害者とスポーツ，岩波新書． ・飯田貴子・能安貴美江・来田享子（2018）よくわかるスポーツとジェンダー ，ミネルヴァ書房． ・井上典之（2021）スポーツを法的に考える - 日本のスポーツと法・ガバナンス - ，信山社新書． ・原田宗彦（2020）スポーツ地域マネジメント-持続可能なまちづくりに向けた課題と戦略 - ，学芸出版社． ・時本識資・田畑亨・内藤正和（2019）はじめて学ぶスポーツ政策，アイオーエム． ・坂上康博（2001）スポーツと政治，山川出版社． ・齊藤まゆみ（2018）教養としてのアダブテッド体育・スポーツ学，大修館書店． ・日本スポーツとジェンダー学会（2016）データでみるスポーツとジェンダー，八千代出版． ・原田宗彦（2016）スポーツ都市戦略 - 2020年後を見すえたまちづくり - ，学芸出版社． ・黒田勇（2012）メディアスポーツへの招待，ミネルヴァ書房． ・平田竹男・河合純一・荒井 秀樹（2016）パラリンピックを学ぶ，早稲田大学出版部． ・井上俊・伊藤公雄（2010）身体・セクシュアリティ・スポーツ，世界思想社． ・アイヴァン・ウォディングトンほか（2014）スポーツと薬物の社会学：- 現状とその歴史的背景，彩流社． ・二宮雅也（2017）スポーツボランティア読本 - 「支えるスポーツ」の魅力とは？ - ，悠光堂．
実務経験のある教員による授業の有無	有
実務経験・実務経験を活かした教育内容	中学校及び高等学校勤務経験、及びスポーツ施設（スタジアム）管理運営経験
アクティブ・ラーニング及びICTを取り入れた授業の実施	この授業では、自らが体を動かし運動実践を行うことで課題を見つけ解決したり、他者の運動を観察することで課題を指摘したりする等、主体的・対話的で深い学びの実現を行う。また、講義（一部実技を含む）では、ICT教材を活用した効果的な学習場面を設定することによって、個別学習や協働学習の促進を目指す。

授業計画

授業計画
毎回授業前に講義テーマに関連する情報を収集して授業に臨み、授業後は自らの情報と講義内容を関連づけて復習をすること。

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
1	授業ガイダンス： 社会学とは何か ・スポーツ社会学を学ぶ意義	スポーツ社会学の領域 スポーツの定義 について、 （事前） 参考文献等を読み、わからない事項について下調べしておくこと（2時間） （事後） ノートを整理し、講義やレポート課題の内容等を踏まえて、改めて教科書を読む（2時間）	授業ガイダンスを含む
2	文化としてのスポーツ	スポーツの概念と歴史 文化としてのスポーツ スポーツの文化的特徴 スポーツの意義と価値 なぜ「スポーツの意義と価値」を考えなければならないのか について、 （事前） 参考文献等を読み、わからない事項について下調べしておくこと（2時間） （事後） ノートを整理し、講義やレポート課題の内容等を踏まえて、改めて教科書を読む（2時間）	ディスカッション・ディベート グループワーク プレゼンテーション 実習

授業計画

毎回授業前に講義テーマに関連する情報を収集して授業に臨み、授業後は自らの情報と講義内容に関連づけて復習をすること。

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
3	スポーツの倫理	スポーツマンシップの意義 ルールの意義と法規範性 フェアプレイの精神 ガバナンスとコンプライアンス スポーツ倫理が問題となる事案 スポーツ仲裁 について、 （事前） 参考文献等を読み、わからない事項について下調べしておくこと（2時間） （事後） ノートを整理し、講義やレポート課題の内容等を踏まえて、改めて教科書を読む（2時間）	ディスカッション・ディベート グループワーク プレゼンテーション 実習
4	オリンピック・パラリンピック（他、ワールドカップ、国民体育大会等）の意義と価値	冠大会におけるスポーツの意義と価値について、 （事前） 参考文献等を読み、わからない事項について下調べしておくこと（2時間） （事後） ノートを整理し、講義やレポート課題の内容等を踏まえて、改めて教科書を読む（2時間）	ディスカッション・ディベート グループワーク プレゼンテーション 実習
5	スポーツとジェンダー スポーツと性	スポーツを通じた女性の社会進出 スポーツとジェンダーに関する問題と スポーツと性別の問題 について、 （事前） 参考文献等を読み、わからない事項について下調べしておくこと（2時間） （事後） ノートを整理し、講義やレポート課題の内容等を踏まえて、改めて教科書を読む（2時間）	ディスカッション・ディベート グループワーク プレゼンテーション 実習
6	障がい者とスポーツ	障がい者スポーツの現状と課題 スポーツ指導者の育成 について、 （事前） 参考文献等を読み、わからない事項について下調べしておくこと（2時間） （事後） ノートを整理し、講義やレポート課題の内容等を踏まえて、改めて教科書を読む（2時間）	ディスカッション・ディベート グループワーク プレゼンテーション 実習
7	スポーツと暴力 ハラスメント 体罰	スポーツの中での暴力やハラスメント、体罰問題 スポーツの自治 暴力、ハラスメント、体罰の根絶のために について、 （事前） 参考文献等を読み、わからない事項について下調べしておくこと（2時間） （事後） ノートを整理し、講義やレポート課題の内容等を踏まえて、改めて教科書を読む（2時間）	ディスカッション・ディベート グループワーク プレゼンテーション 実習

授業計画

毎回授業前に講義テーマに関連する情報を収集して授業に臨み、授業後は自らの情報と講義内容に関連づけて復習をすること。

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
8	スポーツとマスメディア	肥大化する放映権料 ビッグスポーツイベントと広告主企業のスポンサード スポーツとメディアの関係 について （事前） 参考文献等を読み、わからない事項について下調べしておくこと（2時間） （事後） ノートを整理し、講義やレポート課題の内容等を踏まえて、改めて教科書を読む（2時間）	ディスカッション・イベント グループワーク プレゼンテーション 実習
9	スポーツとドーピング	ドーピングをめぐる現状および背景 ドーピング防止機構、規定 禁止薬物と検査法、処分等 アンチ・ドーピングとしてのスポーツ指導者の役割 について、 （事前） 参考文献等を読み、わからない事項について下調べしておくこと（2時間） （事後） ノートを整理し、講義やレポート課題の内容等を踏まえて、改めて教科書を読む（2時間）	ディスカッション・イベント グループワーク プレゼンテーション 実習
10	スポーツと政治：冠大会における課題	オリンピック、ワールドカップ、国民体育大会を事例として、 （事前） 参考文献等を読み、わからない事項について下調べしておくこと（2時間） （事後） ノートを整理し、講義やレポート課題の内容等を踏まえて、改めて教科書を読む（2時間）	ディスカッション・イベント グループワーク プレゼンテーション 実習
11	スポーツ環境と政策	基本的人権としてのスポーツ権 スポーツの価値、自由 「スポーツ基本法」の意義や策定の経緯、スポーツ権の内容 我が国におけるスポーツ政策の現状と課題について （事前） 参考文献等を読み、わからない事項について下調べしておくこと（2時間） （事後） ノートを整理し、講義やレポート課題の内容等を踏まえて、改めて教科書を読む（2時間）	ディスカッション・イベント グループワーク プレゼンテーション 実習
12	スポーツビジネス	スポーツビジネスの現状と課題 スポーツマーケティングの現状と課題について、 （事前） 参考文献等を読み、わからない事項について下調べしておくこと（2時間） （事後） ノートを整理し、講義やレポート課題の内容等を踏まえて、改めて教科書を読む（2時間）	ディスカッション・イベント グループワーク プレゼンテーション 実習

授業計画

毎回授業前に講義テーマに関連する情報を収集して授業に臨み、授業後は自らの情報と講義内容に関連づけて復習をすること。

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
13	地域における体育・スポーツ	我が国のスポーツプロモーション スポーツ組織のマネジメント ・スポーツ組織の特性 ・総合型地域スポーツクラブ ・スポーツ少年団 ・その他の地域スポーツ団体組織 ・スポーツ指導者の役割 について、 （事前） 参考文献等を読み、わからない事項について下調べしておくこと（2時間） （事後） ノートを整理し、講義やレポート課題の内容等を踏まえて、改めて教科書を読む（2時間）	ディスカッション・ディベート グループワーク プレゼンテーション 実習
14	学校教育における体育・スポーツ	学校体育の歴史 教育としてのスポーツ 学校体育と学校運動部活動 について 、 （事前） 参考文献等を読み、わからない事項について下調べしておくこと（2時間） （事後） ノートを整理し、講義やレポート課題の内容等を踏まえて、改めて教科書を読む（2時間）	ディスカッション・ディベート グループワーク プレゼンテーション 実習
15	スポーツ事故と責任 授業のまとめ	スポーツ事故の現状と法的責任 スポーツ事故のリスクマネジメント スポーツの今後の展望（スポーツを（に）学ぶ者の役割と課題） について、 （事前） 参考文献等を読み、わからない事項について下調べしておくこと（2時間） （事後） ノートを整理し、講義やレポート課題の内容等を踏まえて、改めて教科書を読む（2時間）	授業総括を含む

基本情報

科目名	運動学
時間割コード	0440451001
ナンバリングコード	
開講所属	看護福祉学部鍼灸スポーツ学科
ターム・学期	2024年度 第 1 学期
曜限	木 4
開講区分	第 1 学期
単位数	2.0
学年	2
主担当教員	府内 勇希
科目区分	卒業要件外の科目 要件外
必選区分	選択

担当教員情報

教員名
府内 勇希

詳細情報

授業の目的・到達目標	スポーツの指導者には質の高い指導実践能力が要求され、これに加えて運動理論の基礎を理解しておく必要がある。本 科目では、運動及びスポーツ技能の合理的な修得段階や人間の発育発達段階および運動学の基礎について学習する。学 修者は、ヒトが成長する過程での運動及びスポーツ指導上の留意点を説明できるようになる。
履修上の注意事項	授業で学習した内容について理解を深めるために、特に復習に時間を充てること。
評価方法	レポート：20% 平常点、授業への貢献度：20% 試験：60%
テキスト	なし（資料を配布します）
参考文献	・金子明友 監修『教師のための運動学―運動指導の実践理論』大修館書店 ・金子明友・朝岡正雄 著『運動学講義』大修館書店
実務経験のある教員による授業の有無	有
実務経験・実務経験を活かした教育内容	保健体育科教員として熊本県立第二高等学校に勤務経験
アクティブ・ラーニング及びICTを取り入れた授業の実施	指導者として重要な科目であることから、グループワークを中心に授業を展開する。

授業計画

授業計画
該当するデータはありません

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
1	運動学の概念について説明できる	特に復習を重点的に行う（2時間）。	
2	運動の発生と発達について説明できる	特に復習を重点的に行う（2時間）。	
3	運動学での体力について説明できる	特に復習を重点的に行う（2時間）。	
4	運動の学習過程について説明できる	特に復習を重点的に行う（2時間）。	
5	動きのアナラゴンについて説明できる	特に復習を重点的に行う（2時間）。	
6	動きの構造について説明できる	特に復習を重点的に行う（2時間）。	
7	動きの局面分けを説明できる	特に復習を重点的に行う（2時間）。	
8	動きのリズムについて説明できる	特に復習を重点的に行う（2時間）。	
9	動きの修正の仕方について説明できる	特に復習を重点的に行う（2時間）。	
10	動きの習得について説明できる	特に復習を重点的に行う（2時間）。	
11	骨格系、筋系の概要について説明できる	特に復習を重点的に行う（2時間）。	
12	呼吸器系の概要について説明できる	特に復習を重点的に行う（2時間）。	
13	筋収縮について説明できる	特に復習を重点的に行う（2時間）。	
14	運動連鎖について説明できる	特に復習を重点的に行う（2時間）。	
15	まとめ	これまで学習した内容の総復習を行う（2時間）。	

基本情報

科目名	体力測定・評価
時間割コード	0440305501
ナンバリングコード	
開講所属	看護福祉学部鍼灸スポーツ学科
ターム・学期	2024年度 第 1 学期
曜限	水 2, 水 4
開講区分	第 1 学期
単位数	1.0
学年	2
主担当教員	平崎 和雄
科目区分	専門科目 鍼灸専門科目（総合）
必選区分	選択

担当教員情報

教員名
平崎 和雄

詳細情報

授業の目的・到達目標	本科目は、健康増進並びにスポーツ医学に関する知識を学ぶ。 学修者は、健康保持増進には、運動習慣の有無が強い影響を与え、過度の運動やトレーニングは時には 両刃の剣であり、対象者によっては関節、骨、筋肉や腱を痛めることにもなるとを理解できるようにし 健康増進のための運動の在り方について理解を深めるための適切なアドバイスを与えることができるよう、 各年齢・活動レベルに応じた体力測定の実際とその評価、運動の強度と身体への反応について理解・説明・実践できるようになる。
履修上の注意事項	提供された事前課題を通読しておくこと。演習・実習で構成するので動きやすい服装で参加すること。 健康運動指導士・健康運動実践指導者は必ず履修のこと。" 予習復習を120分行うこと
評価方法	提出物・定期試験等で総合的に評価する。 定期試験80%、課題レポート20% 課題レポートは最終日に返却します。
テキスト	健康運動指導士養成講習会テキスト（下） 公益財団法人健康・体力づくり事業財団
参考文献	適宜プリントを配布する
実務経験のある教員による授業の有無	有
実務経験・実務経験を活かした教育内容	健康運動指導士として病院勤務の経験から、青少年、一般人のみならず中高齢者・高齢者・要介護者 への測定評価に必要な思考力・実践力が身に付けられるような授業を展開していく。
アクティブ・ラーニング及びICTを取り入れた授業の実施	グループワークを中心に授業を行う。

授業計画

授業計画
該当するデータはありません

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
1	オリエンテーション	・事前学修：テキスト指定範囲を事前に熟読し、わからない事項について下調べしておく。（2時間） ・事後学修：ノートをしっかりと整理する。わからない用語は他者に説明できるようになるまで調べる。また、演習を踏まえて改めてテキストを読む（2時間）	

授業計画

該当するデータはありません

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
2	体力の定義と体力測定の目的	・事前学修：テキスト指定範囲を事前に熟読し、わからない事項について下調べしておく。（2時間） ・事後学修：ノートをしっかり整理する。わからない用語は他者に説明できるようになるまで調べる。また、演習を踏まえて改めてテキストを読む（2時間）	
3	体力測定の意義と各種測定法概論	・事前学修：テキスト指定範囲を事前に熟読し、わからない事項について下調べしておく。（2時間） ・事後学修：ノートをしっかり整理する。わからない用語は他者に説明できるようになるまで調べる。また、演習を踏まえて改めてテキストを読む（2時間）	
4	形態・体格の測定	・事前学修：テキスト指定範囲を事前に熟読し、わからない事項について下調べしておく。（2時間） ・事後学修：ノートをしっかり整理する。わからない用語は他者に説明できるようになるまで調べる。また、演習を踏まえて改めてテキストを読む（2時間）	
5	身体組成（体脂肪量など）の測定	・事前学修：テキスト指定範囲を事前に熟読し、わからない事項について下調べしておく。（2時間） ・事後学修：ノートをしっかり整理する。わからない用語は他者に説明できるようになるまで調べる。また、演習を踏まえて改めてテキストを読む（2時間）	
6	中年者の体力測定法（理論）	・事前学修：テキスト指定範囲を事前に熟読し、わからない事項について下調べしておく。（2時間） ・事後学修：ノートをしっかり整理する。わからない用語は他者に説明できるようになるまで調べる。また、演習を踏まえて改めてテキストを読む（2時間）	
7	中年者の体力測定法（測定）	・事前学修：テキスト指定範囲を事前に熟読し、わからない事項について下調べしておく。（2時間） ・事後学修：ノートをしっかり整理する。わからない用語は他者に説明できるようになるまで調べる。また、演習を踏まえて改めてテキストを読む（2時間）	
8	中年者の体力測定法（評価）	・事前学修：テキスト指定範囲を事前に熟読し、わからない事項について下調べしておく。（2時間） ・事後学修：ノートをしっかり整理する。わからない用語は他者に説明できるようになるまで調べる。また、演習を踏まえて改めてテキストを読む（2時間）	
9	高齢者の体力測定法（理論）	・事前学修：テキスト指定範囲を事前に熟読し、わからない事項について下調べしておく。（2時間） ・事後学修：ノートをしっかり整理する。わからない用語は他者に説明できるようになるまで調べる。また、演習を踏まえて改めてテキストを読む（2時間）	
10	高齢者の体力測定法（測定）	・事前学修：テキスト指定範囲を事前に熟読し、わからない事項について下調べしておく。（2時間） ・事後学修：ノートをしっかり整理する。わからない用語は他者に説明できるようになるまで調べる。また、演習を踏まえて改めてテキストを読む（2時間）	

授業計画

該当するデータはありません

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
11	高齢者の体力測定法（評価）	・事前学修：テキスト指定範囲を事前に熟読し、わからない事項について下調べしておく。（2時間） ・事後学修：ノートをしっかり整理する。わからない用語は他者に説明できるようになるまで調べる。また、演習を踏まえて改めてテキストを読む（2時間）	
12	介護予防に関する体力測定（理論）	・事前学修：テキスト指定範囲を事前に熟読し、わからない事項について下調べしておく。（2時間） ・事後学修：ノートをしっかり整理する。わからない用語は他者に説明できるようになるまで調べる。また、演習を踏まえて改めてテキストを読む（2時間）	
13	介護予防に関する体力測定（測定）	・事前学修：テキスト指定範囲を事前に熟読し、わからない事項について下調べしておく。（2時間） ・事後学修：ノートをしっかり整理する。わからない用語は他者に説明できるようになるまで調べる。また、演習を踏まえて改めてテキストを読む（2時間）	
14	介護予防に関する体力測定（評価）	・事前学修：テキスト指定範囲を事前に熟読し、わからない事項について下調べしておく。（2時間） ・事後学修：ノートをしっかり整理する。わからない用語は他者に説明できるようになるまで調べる。また、演習を踏まえて改めてテキストを読む（2時間）	
15	まとめ	・事前学修：テキスト指定範囲を事前に熟読し、わからない事項について下調べしておく。（2時間） ・事後学修：ノートをしっかり整理する。わからない用語は他者に説明できるようになるまで調べる。また、演習を踏まえて改めてテキストを読む（2時間）	

基本情報

科目名	生理学
時間割コード	0450210301
ナンバリングコード	A12011-L-20
開講所属	看護福祉学部鍼灸スポーツ学科
ターム・学期	2024年度 第1学期
曜限	金 2
開講区分	第1学期
単位数	2.0
学年	1
主担当教員	田口 太郎
科目区分	共通専門科目 鍼灸共通専門科目（人体）
必選区分	必修

担当教員情報

教員名
田口 太郎

詳細情報

授業の目的・到達目標	鍼灸学を基礎とした医学・医療の専門知識を身につけるためには、正常な人体の機能（生理学）の正しい理解が必要不可欠である。生理学 では、まず生理学の基礎として細胞機能および活動電位の仕組みを説明できるようになること、続いて、血液および心機能と血液循環、呼吸に関する基礎理論を理解し、これらの正常状態を正しく説明できるようになることを目的とする。また、サブテキストを用いた小テストを通して、さらに理解を深める。
履修上の注意事項	事前学修課題および事後学修課題はキャンパススクエアで通知を行います。毎回の授業開始前に回収し、次週までに返却します。
評価方法	毎回の課題30点、筆記試験70点、合計100点とする。再試験は筆記試験のみで評価する。
テキスト	1．「生理学（第3版）」編：内田さえ 他，医歯薬出版 2．「シンプル生理学（改訂第8版）」著：貴邑富久子/根来英雄，南江堂 3．「生理学マスター」著：影山照雄，医道の日本社
参考文献	1．「標準生理学（第9版）」監修：本間研一，医学書院
実務経験のある教員による授業の有無	有
実務経験・実務経験を活かした教育内容	鍼灸師として実務経験
アクティブ・ラーニング及びICTを取り入れた授業の実施	毎回の講義でグループワークおよびプレゼンテーション（アクティブラーニング）を行う。

授業計画

授業計画
事前学修：事前課題について、テキストを熟読し回答を用意しておくこと（2時間／週） 事後学修：講義中に返却された課題について修正を行い、内容について説明ができるようにすること（2時間／週）

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
1	生理学の基礎：人体の構成、細胞の構造と働き	「授業計画」欄記載の通り	
2	生理学の基礎：体液の組成と働き、物質代謝、物質移動	「授業計画」欄記載の通り	
3	血液：赤血球、ヘモグロビン、鉄代謝、血液型	「授業計画」欄記載の通り	
4	血液：白血球、免疫	「授業計画」欄記載の通り	
5	血液：血小板、血液凝固と線溶	「授業計画」欄記載の通り	
6	呼吸：呼吸器系の構造、換気機能、呼吸力学	「授業計画」欄記載の通り	
7	呼吸：ガス交換、呼吸ガスの運搬	「授業計画」欄記載の通り	
8	呼吸：呼吸運動の調節	「授業計画」欄記載の通り	
9	酸塩基平衡	「授業計画」欄記載の通り	
10	循環：大循環、小循環、動脈と静脈	「授業計画」欄記載の通り	
11	循環：心臓の構造と働き、刺激伝導系	「授業計画」欄記載の通り	
12	循環：心臓の自律神経による調節、心臓の収縮、心電図	「授業計画」欄記載の通り	
13	循環：血管の構造と機能、血行力学	「授業計画」欄記載の通り	

授業計画

事前学修：事前課題について、テキストを熟読し回答を用意しておくこと（2時間／週）

事後学修：講義中に返却された課題について修正を行い、内容について説明ができるようにすること（2時間／週）

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
14	循環：循環調節	「授業計画」欄記載の通り	
15	循環：特殊部位の循環、リンパ循環	「授業計画」欄記載の通り	

基本情報

科目名	保健体育科教育法
時間割コード	0440900404
ナンバリングコード	
開講所属	看護福祉学部鍼灸スポーツ学科
ターム・学期	2024年度 第2学期
曜限	日
開講区分	第2学期
単位数	2.0
学年	3
主担当教員	國木 孝治
科目区分	卒業要件外の科目 要件外
必選区分	選択

担当教員情報

教員名
國木 孝治

詳細情報

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 1) 当該教科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解するとともに、『学習指導要領』に示された中学校及び高等学校における体育理論の学習内容について、背景となる学問領域と関連させて理解を深め、様々な学習指導理論を踏まえて、具体的な授業場면을想定した授業設計を行う方法を身に付けることを目的とする。 【到達目標】 ・中・高生の認識・思考、学力等の実態を視野に入れた授業設計の重要性を理解することができる。 ・当該教科の特性に応じた情報機器及び教材の効果的な活用法を理解し、授業設計に活用することができる。 ・学習指導案の構成を理解し、具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案を作成することができる。 ・模擬授業の実施とその振り返りを通して、授業改善の視点を身に付けることができる。 ・当該教科における実践研究の動向を知り、授業設計の向上に取り組むことができる。
履修上の注意事項	・中・高教職（保健体育）履修者必修科目 ・遅刻・欠席をしないこと ・教育実習（中・高保健体育）へ向けて、自覚（整容等を含む）と言動で臨むこと ・教育実習（中・高保健体育）へ向けて、積極的な準備及び十分な取り組みをすること 尚、この授業の内、模擬授業の実施や、学外中学・高校での授業見学等における心構えや取り組み、身だしなみ等の整容については、「鍼灸スポーツ学科 実習に関する内規」に準じるので、学生便覧の該当部分をよく理解しておくこと。
評価方法	2 / 3 以上の出席者に対して定期試験を実施する。試験においては授業内容の理解度を評価する。 ・出席及び学習態度・意欲：（20/100） ・実践力（ 学習指導案、 学習カード、 模擬授業実践、 実践の振り返り）：（30/100） ・学科考査：（50/100）
テキスト	購入の必要無し（ 「保健体育科教育法 ・ ・ 」 で使用した教材を活用する ）
参考文献	・文部科学省編（2017）中学校学習指導要領（平成29年公示）解説：保健体育編，東山書房． ・文部科学省編（2018）高等学校学習指導要領（平成30年公示）解説：保健体育編・体育編，東山書房． ・森昭三ほか（2019）新・中学保健体育，学研． ・和唐正勝ほか（2019）最新高等保健体育（改訂版），大修館書店． ・時事通信出版局編（2021）専門教養Build Upシリーズ 「中高保健体育の完全攻略」（2023年度版），時事通信出版局． ・文部科学省編（2017）中学校学習指導要領（平成29年公示），東山書房． ・文部科学省編（2018）高等学校学習指導要領（平成30年公示），東山書房． ・杉山重利ほか編（2010）教師を目指す学生必携「保健体育科教育法」，大修館書店． ・岡出美則ほか編（2021）体育科教育学入門（三訂版），大修館書店． ・佐藤豊・友添秀則編著（2014）楽しい体育理論の授業をつくろう，大修館書店． ・久保健（2014）体育科教育法講義・資料集，創文企画． ・高橋健行（2007）体育授業を観察評価する，明和出版．
実務経験のある教員による授業の有無	有
実務経験・実務経験を活かした教育内容	・中学校及び高等学校勤務経験から、具体的な指導事例を交えながら、教育指導者として必要な思考力、判断力、学びに向かう力等を身に付けられる授業を展開していく。

詳細情報

アクティブ・ラーニング及びICTを取り入れた授業の実施	この授業では、各回において課題を出し、翌週以降の授業で模擬授業を実施したり、学外の中・高校へ授業見学訪問するような、主体的・対話的で深い学びの実現を行う。また、ICT教材を活用した効果的な学習場面を設定することによって、個別学習や協働学習の促進を目指す。加えて、各自が持参するPC等を活用した課題の作成や発表資料の作成等を行い、学校教育における1人1台端末に対応したIT教育の教材開発にも触れる。
-----------------------------	--

授業計画

授業計画	
中学校および高等学校における保健体育教育の内、本授業では体育理論に焦点を当て、「学習指導案」の作成及び模擬授業の展開を主体に授業を進める。 なお、模擬授業の実施を通して課題を見つけ、フィードバックを行う。	

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
1	授業ガイダンス	（事前） ・シラバスを読んでおくこと ・1学期の復習をしておくこと	・授業の進め方、授業評価、学校教育に係る全体像の把握
2	体育理論概論	1) 保健体育科教育法 のふりかえり 2) 体育理論 について、 （事前） 参考文献等を読み、わからない事項について下調べしておくこと（2時間） （事後） ノートを整理し、講義内容を再確認しながら復習に取り組む（2時間）	
3	体育理論の授業をつくる	1) 良い体育理論授業のイメージづくり 2) 学習目標の設定 3) 学習内容の理解 （事前） 参考文献等を読み、わからない事項について下調べしておくこと（2時間） （事後） ノートを整理し、講義内容を再確認しながらレポート課題に取り組む（2時間）	ディスカッション グループワーク
4	体育理論の授業をつくる	1) 教材の準備 2) 授業スタイルを考える 3) 学習指導の計画を立てる （事前） 参考文献等を読み、わからない事項について下調べしておくこと（2時間） （事後） ノートを整理し、講義内容を再確認しながらレポート課題に取り組む（2時間）	ディスカッション グループワーク
5	体育理論の授業をつくる	「学習指導案」の作成 ・授業のめあて ・授業到達目標 ・指導観、教材観、生徒観 ・授業進行表 について、 （事前） 参考文献等を読み、わからない事項について下調べしておくこと（2時間） （事後） ノートを整理し、講義内容を再確認しながらレポート課題に取り組む（2時間）	ディスカッション グループワーク
6	模擬授業：中学校体育理論・運動やスポーツの多様性	模擬授業の展開と省察（1） （事前） 「学習指導案」の作成（2時間） （事後） 作成した「学習指導案」のふりかえり（2時間）	ディスカッション・ディベート グループワーク プレゼンテーション 実習
7	模擬授業：中学校体育理論・運動やスポーツが心身の発達に与える効果と安全	模擬授業の展開と省察（2） （事前） 「学習指導案」の作成（2時間） （事後） 作成した「学習指導案」のふりかえり（2時間）	ディスカッション・ディベート グループワーク プレゼンテーション 実習

授業計画

中学校および高等学校における保健体育教育の内、本授業では体育理論に焦点を当て、「学習指導案」の作成及び模擬授業の展開を主体に授業を進める。

なお、模擬授業の実施を通して課題を見つけ、フィードバックを行う。

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
8	模擬授業：中学校体育理論 ・文化としてのスポーツの意義	模擬授業の展開と省察（3） （事前） 「学習指導案」の作成（2時間） （事後） 作成した「学習指導案」のふりかえり（2時間）	ディスカッション・ディベート グループワーク プレゼンテーション 実習
9	模擬授業：高等学校体育理論 ・スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展(1)：歴史、意義、価値	模擬授業の展開と省察（4） （事前） 「学習指導案」の作成（2時間） （事後） 作成した「学習指導案」のふりかえり（2時間）	ディスカッション・ディベート グループワーク プレゼンテーション 実習
10	模擬授業：高等学校体育理論 ・スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展(2)：経済、環境	模擬授業の展開と省察（5） （事前） 「学習指導案」の作成（2時間） （事後） 作成した「学習指導案」のふりかえり（2時間）	ディスカッション・ディベート グループワーク プレゼンテーション 実習
11	模擬授業：高等学校体育理論 ・運動やスポーツの効果的な学習の仕方(1)：技術、技能	模擬授業の展開と省察（6） （事前） 「学習指導案」の作成（2時間） （事後） 作成した「学習指導案」のふりかえり（2時間）	ディスカッション・ディベート グループワーク プレゼンテーション 実習
12	模擬授業：高等学校体育理論 ・運動やスポーツの効果的な学習の仕方(2)：健康、安全	模擬授業の展開と省察（7） （事前） 「学習指導案」の作成（2時間） （事後） 作成した「学習指導案」のふりかえり（2時間）	ディスカッション・ディベート グループワーク プレゼンテーション 実習
13	模擬授業：高等学校体育理論 ・豊かなスポーツライフの設計の仕方(1)：ライフステージ	模擬授業の展開と省察（8） （事前） 「学習指導案」の作成（2時間） （事後） 作成した「学習指導案」のふりかえり（2時間）	ディスカッション・ディベート グループワーク プレゼンテーション 実習
14	模擬授業：高等学校体育理論 ・豊かなスポーツライフの設計の仕方(2)：スポーツ政策、諸条件	模擬授業の展開と省察（9） （事前） 「学習指導案」の作成（2時間） （事後） 作成した「学習指導案」のふりかえり（2時間）	ディスカッション・ディベート グループワーク プレゼンテーション 実習
15	授業リフレクション	・前後期授業総括 ・教員採用試験を想定した問題（専門教養）の出題傾向と対策 ・定期試験について、これまでの授業内容を振り返り、 （事前） 忘れてしまった事項等について振り返りを行う（2時間） （事後） ノートを整理し、定期試験課題に取り組む（2時間）	

基本情報

科目名	環境衛生学
時間割コード	0440130401
ナンバリングコード	
開講所属	看護福祉学部鍼灸スポーツ学科
ターム・学期	2024年度 第 2 学期
曜限	水 3
開講区分	第 2 学期
単位数	2.0
学年	2
主担当教員	星野 輝彦
科目区分	共通科目 科学的思考の基盤
必選区分	選択

担当教員情報

教員名
星野 輝彦

詳細情報

授業の目的・到達目標	環境因子と人との相互関係に関する知識について学ぶ。 生活環境の安全の確保と健康の維持・増進の重要性を認識できるようになる。
履修上の注意事項	出欠は出席カードを用います。出席カードの裏に講義の質問や感想を書くこと。次回講義の際回答します。
評価方法	試験90%、レポート10%（レポートは採点して学生へ返却する。）
テキスト	各講義の際に資料を配布する。
参考文献	「環境 ここがポイント」斉藤勝裕（三共出版） 「新しい環境科学」鈴木孝弘（駿河台出版社）
実務経験のある教員による授業の有無	有
実務経験・実務経験を活かした教育内容	薬剤師として学校環境衛生管理に関与している経験から、環境保全のための目的及びモニタリング手技を解説する。
アクティブ・ラーニング及びICTを取り入れた授業の実施	該当なし。

授業計画

授業計画
スライドや動画を利用します。

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
1	環境衛生学概論：環境衛生の歴史	環境と人類の共存 事前学習：プリントを事前に熟読し、わからない用語について下調べしておくこと。（ 2 時間） 事後学習：講義中に記したメモを整理すること。重要な事項は、他者に説明できるようになること。興味ある事項についてさらに知識を深め、今後の対応などについて考察すること。（ 2 時間）	
2	環境因子と人体：環境物質の体内動態と毒性、安全の基準	体内動態と毒性発現 事前学習：プリントを事前に熟読し、わからない用語について下調べしておくこと。（ 2 時間） 事後学習：講義中に記したメモを整理すること。重要な事項は、他者に説明できるようになること。興味ある事項についてさらに知識を深め、今後の対応などについて考察すること。（ 2 時間）	

授業計画

スライドや動画を利用します。

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
3	環境化学：生態系と物質動態	生態系の構造と環境の中の物質の動態 事前学習：プリントを事前に熟読し、わからない用語について下調べしておくこと。（2時間） 事後学習：講義中に記したメモを整理すること。重要な事項は、他者に説明できるようになること。興味ある事項についてさらに知識を深め、今後の対応などについて考察すること。（2時間）	
4	地球環境の化学：オゾン層破壊、地球温暖化、酸性雨	地球温暖化 事前学習：プリントを事前に熟読し、わからない用語について下調べしておくこと。（2時間） 事後学習：講義中に記したメモを整理すること。重要な事項は、他者に説明できるようになること。興味ある事項についてさらに知識を深め、今後の対応などについて考察すること。（2時間）	
5	環境因子と健康：化学的因子（重金属、農薬、工業薬品など）の健康への影響	化学物質の健康被害 事前学習：プリントを事前に熟読し、わからない用語について下調べしておくこと。（2時間） 事後学習：講義中に記したメモを整理すること。重要な事項は、他者に説明できるようになること。興味ある事項についてさらに知識を深め、今後の対応などについて考察すること。（2時間）	
6	環境因子と健康：化学的因子（環境ホルモンなど）の健康への影響	環境ホルモン 事前学習：プリントを事前に熟読し、わからない用語について下調べしておくこと。（2時間） 事後学習：講義中に記したメモを整理すること。重要な事項は、他者に説明できるようになること。興味ある事項についてさらに知識を深め、今後の対応などについて考察すること。（2時間）	
7	環境因子と健康：生物学的因子（病原微生物など）の健康への影響	病原微生物の健康被害 事前学習：プリントを事前に熟読し、わからない用語について下調べしておくこと。（2時間） 事後学習：講義中に記したメモを整理すること。重要な事項は、他者に説明できるようになること。興味ある事項についてさらに知識を深め、今後の対応などについて考察すること。（2時間）	

授業計画

スライドや動画を利用します。

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
8	環境因子と健康：物理的因子（放射線など）の健康への影響	放射線の健康被害 事前学習：プリントを事前に熟読し、わからない用語について下調べしておくこと。（2時間） 事後学習：講義中に記したメモを整理すること。重要な事項は、他者に説明できるようになること。興味ある事項についてさらに知識を深め、今後の対応などについて考察すること。（2時間）	
9	環境因子と健康：物理的因子（温熱、圧力、騒音など）健康への影響	温度、気圧、騒音などによる健康被害 事前学習：プリントを事前に熟読し、わからない用語について下調べしておくこと。（2時間） 事後学習：講義中に記したメモを整理すること。重要な事項は、他者に説明できるようになること。興味ある事項についてさらに知識を深め、今後の対応などについて考察すること。（2時間）	
10	大気環境と健康：大気汚染の状況と対策	大気汚染の健康被害 事前学習：プリントを事前に熟読し、わからない用語について下調べしておくこと。（2時間） 事後学習：講義中に記したメモを整理すること。重要な事項は、他者に説明できるようになること。興味ある事項についてさらに知識を深め、今後の対応などについて考察すること。（2時間）	
11	水環境と健康：水に由来する健康被害、水質汚濁状況と対策	水による健康被害 事前学習：プリントを事前に熟読し、わからない用語について下調べしておくこと。（2時間） 事後学習：講義中に記したメモを整理すること。重要な事項は、他者に説明できるようになること。興味ある事項についてさらに知識を深め、今後の対応などについて考察すること。（2時間）	
12	食品環境と健康：食品汚染と食中毒	食品汚染による健康被害 事前学習：プリントを事前に熟読し、わからない用語について下調べしておくこと。（2時間） 事後学習：講義中に記したメモを整理すること。重要な事項は、他者に説明できるようになること。興味ある事項についてさらに知識を深め、今後の対応などについて考察すること。（2時間）	

授業計画

スライドや動画を利用します。

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
13	生活環境と健康：室内の汚染物質	室内の汚染物質 事前学習：プリントを事前に熟読し、わからない用語について下調べしておくこと。（２時間） 事後学習：講義中に記したメモを整理すること。重要な事項は、他者に説明できるようになること。興味ある事項についてさらに知識を深め、今後の対応などについて考察すること。（２時間）	
14	生活環境と健康：廃棄物の分類と処理方法	廃棄物の分類 事前学習：プリントを事前に熟読し、わからない用語について下調べしておくこと。（２時間） 事後学習：講義中に記したメモを整理すること。重要な事項は、他者に説明できるようになること。興味ある事項についてさらに知識を深め、今後の対応などについて考察すること。（２時間）	
15	環境影響評価と対策：環境アセスメント	環境アセスメント 事前学習：プリントを事前に熟読し、わからない用語について下調べしておくこと。（２時間） 事後学習：講義中に記したメモを整理すること。重要な事項は、他者に説明できるようになること。興味ある事項についてさらに知識を深め、今後の対応などについて考察すること。（２時間）	

基本情報

科目名	生理学（講義・演習）
時間割コード	0440200601
ナンバリングコード	
開講所属	看護福祉学部鍼灸スポーツ学科
ターム・学期	2024年度 第2学期
曜限	木 2
開講区分	第2学期
単位数	1.0
学年	2
主担当教員	田口 太郎
科目区分	共通専門科目 鍼灸共通専門科目（人体）
必選区分	必修

担当教員情報

教員名
田口 太郎、浅井 福太郎、花田 雄二、山本 秀幸

詳細情報

授業の目的・到達目標	鍼灸学を基礎とした医学・医療の専門知識並びにスポーツ科学に関する幅広い知識を身につけるためには、正常な人体の機能（生理学）の正しい理解が必要不可欠である。生理学・で一通り学んだ内容を基礎として、ホメオスタシスおよび感覚機能に関する機能の仕組みを説明できるようになることを目的とする。また、演習では実際にデータを測定し、その解釈を通して生理学的現象を説明できるようになることを目的とする。
履修上の注意事項	講義：必ず該当項目の解剖学を復習しておくこと。事前・事後学修課題はキャンパススクエアで通知し、毎回講義開始時に集めるので指示の通り準備すること。 演習：レポートの提出がない場合はその項目は評価できないので注意すること。
評価方法	筆記試験50点・演習25点・毎講義の課題15点・小テスト5点×2回。再試験は筆記試験のみで評価する。
テキスト	1．「生理学（第3版）」編：内田さえ 他，医歯薬出版 2．「シンプル生理学（改訂第8版）」著：貴邑富久子/根来英雄．南江堂 3．「生理学マスター」著：影山照雄．医道の日本社
参考文献	1．「標準生理学（第9版）」監修：本間研一 医学書院
実務経験のある教員による授業の有無	有
実務経験・実務経験を活かした教育内容	田口・浅井・花田：鍼灸師として実務経験 山本：医師として実務経験
アクティブ・ラーニング及びICTを取り入れた授業の実施	それぞれのテーマについてグループごとに話し合い、検査や測定を行い、発表し合う時間を設ける予定である。

授業計画

授業計画
【講義】 事前学修：事前課題について、テキストを熟読し回答を用意しておくこと（1時間／週） 事後学修：講義中に返却された課題について修正を行い、内容について説明ができるようにすること（1時間／週） 【演習】 事前学修：演習の手引きに記載されている内容を熟読し、用語や手順について下調べを行うこと（1時間／週） 事後学修：実施した演習で指示された課題を作成すること（1時間／週）

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
1	内分泌：ホルモンの作用機序と調節、視床下部・下垂体（田口）	「授業計画」欄記載の通り	
2	内分泌：副腎皮質・副腎髄質・甲状腺・膵臓（田口）	「授業計画」欄記載の通り	
3	内分泌：カルシウム代謝の調節、性ホルモン（田口）	「授業計画」欄記載の通り	
4	生殖・成長と老化：生殖、妊娠と出産、成長、老化（田口）	「授業計画」欄記載の通り	
5	自律神経系：自律神経の働き・神経線維、伝達物質と受容体【小テスト】（田口）	「授業計画」欄記載の通り	
6	自律神経系：自律神経系の中樞、自律神経反射（田口）	「授業計画」欄記載の通り	

授業計画

【講義】

事前学修：事前課題について、テキストを熟読し回答を用意しておくこと（1時間／週）

事後学修：講義中に返却された課題について修正を行い、内容について説明ができるようにすること（1時間／週）

【演習】

事前学修：演習の手引きに記載されている内容を熟読し、用語や手順について下調べを行うこと（1時間／週）

事後学修：実施した演習で指示された課題を作成すること（1時間／週）

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
7	感覚：感覚の種類と一般的性質（田口）	「授業計画」欄記載の通り	
8	感覚：体性感覚、内臓感覚（田口）	「授業計画」欄記載の通り	
9	感覚：特殊感覚（田口）	「授業計画」欄記載の通り	
10	演習（1）心電図の測定（山本・田口・浅井・花田）	「授業計画」欄記載の通り	
11	演習（2）負荷心電図 トレッドミル（山本・田口・浅井・花田）	「授業計画」欄記載の通り	
12	演習（3）負荷心電図 エルゴメータ（山本・田口・浅井・花田）	「授業計画」欄記載の通り	
13	演習（4）二点弁別閾の測定（山本・田口・浅井・花田）	「授業計画」欄記載の通り	
14	生体の防御機構（田口）	「授業計画」欄記載の通り	
15	身体活動の協調：適応、恒常性維持、バイオリズム（田口）	「授業計画」欄記載の通り	

基本情報

科目名	保健体育科教育法
時間割コード	0440900101
ナンバリングコード	
開講所属	看護福祉学部鍼灸スポーツ学科
ターム・学期	2024年度 第1学期
曜限	月 3
開講区分	第1学期
単位数	2.0
学年	2
主担当教員	國木 孝治
科目区分	卒業要件外の科目 要件外
必選区分	選択

担当教員情報

教員名
國木 孝治

詳細情報

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 中学校及び高等学校における保健体育科教育の教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、『学習指導要領』に示された学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場면을想定した授業設計を行うための基礎的な知識を身に付けることを目的とする。 【到達目標】 (知識・技能) ・『学習指導要領』に示された中学校及び高等学校における保健体育科教育の学習内容を理解することができる。 (思考力・判断力・学びに向かう力) ・生徒の認識・思考、学力等の実態を視野に入れた保健体育科教育の重要性を理解することができる。
履修上の注意事項	・中・高教職（保健体育）履修者必修科目 ・遅刻・欠席をしないこと ・教育実習（中・高保健体育）へ向けて、自覚（整容等を含む）と言動で臨むこと ・教育実習（中・高保健体育）へ向けて、積極的な準備及び十分な取り組みをすること 尚、この授業では、模擬授業の実施場面や学外（中・高校への授業見学等）実習を設けることがあります。その際の心構えや準備、身だしなみ等整容については、「鍼灸スポーツ学科 実習に関する内規」に準じて行いますので、学生便覧の該当部分をよく理解しておくこと。
評価方法	2 / 3 以上の出席者に対して定期試験を実施する。定期試験においては、授業内容の理解度を評価する。 なお、毎授業レポートの提出または小テストを実施し、知識理解のフィードバックを行う。 ・学習態度・意欲（学びに向かう力・人間性等）：30/100 ・課題解決力・レポート（思考力・判断力・表現力）：30/100 ・試験考査（知識・技能）：40/100
テキスト	・文部科学省編（2017）中学校学習指導要領（平成29年公示）解説：保健体育編，東山書房． ・文部科学省編（2018）高等学校学習指導要領（平成30年公示）解説：保健体育編・体育編，東山書房． ・時事通信出版局編（2021）専門教養Build Upシリーズ 「中高保健体育の完全攻略」（2023年度版），時事通信出版局．
参考文献	・文部科学省編（2017）中学校学習指導要領（平成29年公示），東山書房． ・文部科学省編（2018）高等学校学習指導要領（平成30年公示），東山書房． ・杉山重利ほか編（2010）教師を目指す学生必携「保健体育科教育法」，大修館書店． ・岡出美則ほか編（2021）体育科教育学入門（三訂版），大修館書店． ・鈴木一行（2017）保健科教育法入門，大修館書店． ・久保健（2014）体育科教育法講義・資料集，創文企画． ・高橋健行（2007）体育授業を観察評価する，明和出版．
実務経験のある教員による授業の有無	有
実務経験・実務経験を活かした教育内容	・中学校及び高等学校勤務経験から、具体的な指導事例を交えながら、教育指導者として必要な思考力、判断力、学びに向かう力を身に付けられる授業を展開していく。

詳細情報

アクティブ・ラーニング及びICTを取り入れた授業の実施	この授業では、各回において課題を出し、グループ学習を行ったり、翌週以降の授業で発表したりするような、主体的・対話的で深い学びの実現を行う。また、ICT教材を活用した効果的な学習場面を設定することによって、個別学習や協働学習の促進を目指す。加えて、各自が持参するPC等を活用した課題の作成や発表資料の作成等を行い、学校教育における1人1台端末に対応したIT教育の教材開発にも触れる。
-----------------------------	--

授業計画

授業計画
中学校・高等学校における保健体育教育の目的・目標、役割を明らかにし、『学習指導要領』に基づく指導内容に焦点を当て授業を展開する。

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
1	授業ガイダンス	（事前） シラバスを読んでおくこと（2時間）	・授業の進め方、授業評価、学校教育に係る全体像の把握 ・学校の教科としての体育はなぜあるのか
2	学校体育とは何か	1) 近代体育史の外観 2) 近代日本の体育教師像と養成制度 3) 現代日本の学校体育 について、 （事前） 参考文献等を読み、わからない事項について下調べしておくこと（2時間） （事後） ノートを整理し、講義内容を再確認しながらレポート課題に取り組む（2時間）	
3	保健体育科教育のカリキュラム	1) カリキュラムの基礎・基本 2) 小・中・高の保健体育科教育のカリキュラム 3) 保健と体育を関連させた「からだの学習」の必要性 4) 「体育理論」の誕生と展開 5) 「からだづくり論」の誕生と展開 について、 （事前） 参考文献等を読み、わからない事項について下調べしておくこと（2時間） （事後） ノートを整理し、講義内容を再確認しながらレポート課題に取り組む（2時間）	ディスカッション グループワーク
4	『学習指導要領』における今次の改定の要点 ・総則	1) 『学習指導要領』とは何か 2) 『学習指導要領』総則（中・高）について、 （事前） 参考文献等を読み、わからない事項について下調べしておくこと（2時間） （事後） ノートを整理し、講義内容を再確認しながらレポート課題に取り組む（2時間）	ディスカッション グループワーク
5	『学習指導要領』における今次の改定の要点 ・体育の目標 ・保健の目標	1) 体育の目標（中・高） 2) 保健の目標（中・高）について、 （事前） 参考文献等を読み、わからない事項について下調べしておくこと（2時間） （事後） ノートを整理し、講義内容を再確認しながらレポート課題に取り組む（2時間）	ディスカッション グループワーク

授業計画

中学校・高等学校における保健体育教育の目的・目標、役割を明らかにし、『学習指導要領』に基づく指導内容に焦点を当て授業を展開する。

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
6	『学習指導要領』における今次の改定の要点 ・ 体育の指導計画 ・ 保健の指導計画	・ 『学習指導要領』に基づいた年間指導計画、単元計画、時間計画の立て方 1) 体育の指導計画（中・高） 2) 保健の指導計画（中・高）について、（事前） 参考文献等を読み、わからない事項について下調べしておくこと（2時間） （事後） ノートを整理し、講義内容を再確認しながらレポート課題に取り組む（2時間）	ディスカッション グループワーク
7	『学習指導要領』における今次の改定の要点 ・ 評価法	1) 評価の観点 2) 評価基準・評価設定の仕方（中・高） 3) 診断的評価 4) 形成的評価 5) 総括的評価 について、（事前） 参考文献等を読み、わからない事項について下調べしておくこと（2時間） （事後） ノートを整理し、講義内容を再確認しながらレポート課題に取り組む（2時間）	ディスカッション グループワーク
8	「体づくり運動」「器械運動」の授業づくり（中・高）	・ 内容、教材、指導法、評価法、場の設定等の観点から、（事前） 参考文献等を読み、わからない事項について下調べしておくこと（2時間） （事後） ノートを整理し、講義内容を再確認しながらレポート課題に取り組む（2時間）	ディスカッション グループワーク プレゼンテーション 実習
9	「陸上競技」「水泳」の授業づくり（中・高）	・ 内容、教材、指導法、評価法、場の設定等の観点から、（事前） 参考文献等を読み、わからない事項について下調べしておくこと（2時間） （事後） ノートを整理し、講義内容を再確認しながらレポート課題に取り組む（2時間）	ディスカッション グループワーク プレゼンテーション 実習
10	「球技」の授業づくり（中・高）	・ 内容、教材、指導法、評価法、場の設定等の観点から、（事前） 参考文献等を読み、わからない事項について下調べしておくこと（2時間） （事後） ノートを整理し、講義内容を再確認しながらレポート課題に取り組む（2時間）	ディスカッション グループワーク プレゼンテーション 実習
11	「武道」「ダンス」の授業づくり（中・高）	・ 内容、教材、指導法、評価法、場の設定等の観点から、（事前） 参考文献等を読み、わからない事項について下調べしておくこと（2時間） （事後） ノートを整理し、講義内容を再確認しながらレポート課題に取り組む（2時間）	ディスカッション グループワーク プレゼンテーション 実習
12	「体育理論」の授業づくり（中・高）	・ 内容、教材、指導法、評価法、場の設定等の観点から、（事前） 参考文献等を読み、わからない事項について下調べしておくこと（2時間） （事後） ノートを整理し、講義内容を再確認しながらレポート課題に取り組む（2時間）	ディスカッション グループワーク プレゼンテーション 実習

授業計画

中学校・高等学校における保健体育教育の目的・目標、役割を明らかにし、『学習指導要領』に基づく指導内容に焦点を当て授業を展開する。

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
13	「保健」の授業づくり（中・高）	・内容、教材、指導法、評価法、場の設定等の観点から、 （事前） 参考文献等を読み、わからない事項について下調べしておくこと（2時間） （事後） ノートを整理し、講義内容を再確認しながらレポート課題に取り組む（2時間）	ディスカッション グループワーク プレゼンテーション 実習
14	教師論	・教員採用試験（専門教養科目）内容を参考にして、 （事前） 参考文献等を読み、わからない事項について下調べしておくこと（2時間） （事後） ノートを整理し、講義内容を再確認しながらレポート課題に取り組む（2時間）	・教師になるための基礎知識 ・体育科教育法Q&A
15	授業リフレクション	・これまでの授業内容を振り返り、 （事前） 忘れてしまった事項等について振り返りを行う（2時間） （事後） ノートを整理し、定期試験課題に取り組む（2時間）	・前期授業総括 ・試験想定問題（専門教養）の出題傾向と対策 ・定期試験について

基本情報

科目名	保健体育科教育法
時間割コード	0440900201
ナンバリングコード	
開講所属	看護福祉学部鍼灸スポーツ学科
ターム・学期	2024年度 第2学期
曜限	他
開講区分	第2学期
単位数	2.0
学年	2
主担当教員	國木 孝治
科目区分	卒業要件外の科目 要件外
必選区分	選択

担当教員情報

教員名
國木 孝治

詳細情報

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 当該教科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解するとともに、『学習指導要領』に示された中学校及び高等学校における保健科教育の学習内容について、背景となる学問領域と関連させて理解を深め、様々な学習指導理論を踏まえて、具体的な授業場면을想定した授業設計を行う方法を身に付けることを目的とする。 【到達目標】 ・中・高生の認識・思考、学力等の実態を視野に入れた授業設計の重要性を理解することができる。 ・当該教科の特性に応じた情報機器及び教材の効果的な活用法を理解し、授業設計に活用することができる。 ・学習指導案の構成を理解し、具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案を作成することができる。 ・模擬授業の実施とその振り返りを通して、授業改善の視点を身に付けることができる。 ・当該教科における実践研究の動向を知り、授業設計の向上に取り組むことができる。
履修上の注意事項	・中・高教職（保健体育）履修者必修科目 ・遅刻・欠席をしないこと。 ・教員志望者として、ふさわしい態度と心構えで受講すること。 ・受け身にならず主体的に学ぶ姿勢で受講すること。 尚、この授業では、模擬授業の実施場面や学外（中・高校への授業見学等）実習を設けることがあります。その際の心構えや準備、身だしなみ等整容については、「鍼灸スポーツ学科 実習に関する内規」に準じて行いますので、学生便覧の該当部分をよく理解しておくこと。
評価方法	2 / 3 以上の出席者に対して定期試験を実施する。試験においては授業内容の理解度を評価する。 ・学習態度・意欲（学びに向かう力・人間性等）：30% ・課題解決力・学習指導案の作成（思考力・判断力・表現力）：20% ・模擬授業実践（思考力・判断力・表現力）：20% ・試験考査（知識・技能）：30%
テキスト	・森昭三ほか（2019）新・中学保健体育，学研． ・和唐正勝ほか（2019）最新高等保健体育（改訂版），大修館書店．
参考文献	・文部科学省編（2017）中学校学習指導要領（平成29年公示）解説：保健体育編，東山書房． ・文部科学省編（2018）高等学校学習指導要領（平成30年公示）解説：保健体育編・体育編，東山書房． ・時事通信出版局編（2021）専門教養Build Upシリーズ 「中高保健体育の完全攻略」（2023年度版），時事通信出版局． ・文部科学省編（2017）中学校学習指導要領（平成29年公示），東山書房． ・文部科学省編（2018）高等学校学習指導要領（平成30年公示），東山書房． ・杉山重利ほか編（2010）教師を目指す学生必携「保健体育科教育法」，大修館書店． ・岡出美則ほか編（2021）体育科教育学入門（三訂版），大修館書店． ・鈴木一行（2017）保健科教育法入門，大修館書店． ・久保健（2014）体育科教育法講義・資料集，創文企画． ・高橋健行（2007）体育授業を観察評価する，明和出版． ・佐藤豊・友添秀則（2011）楽しい体育理論の授業をつくろう，大修館書店．
実務経験のある教員による授業の有無	有

詳細情報

実務経験・実務経験を活かした教育内容	・中学校及び高等学校勤務経験から、具体的な指導事例を交えながら、教育指導者として必要な思考力、判断力、学びに向かう力等を身に付けられる授業を展開していく。
アクティブ・ラーニング及びICTを取り入れた授業の実施	この授業では、各回において課題を出し、翌週以降の授業で模擬授業を実施したりするような、主体的・対話的で深い学びの実現を行う。また、ICT教材を活用した効果的な学習場面を設定することによって、個別学習や協働学習の促進を目指す。加えて、各自が持参するPC等を活用した課題の作成や発表資料の作成等を行い、学校教育における1人1台端末に対応したIT教育の教材開発にも触れる。

授業計画

授業計画	
中学校および高等学校における保健体育教育の内、本授業では保健科教育に焦点を当て、「学習指導案」の作成及び模擬授業を主体に授業を展開する。 なお、模擬授業の実施を通して課題を見つけ、フィードバックを行う。	

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
1	授業ガイダンス	（事前） ・シラバスを読んでおくこと ・1学期の復習をしておくこと	・授業の進め方、授業評価、学校教育に係る全体像の把握
2	保健科教育概論	1) 1学期のふりかえり 2) 学校教育における保健科教育の位置づけ 3) 我が国における保健科教育の歩み 4) 諸外国の保健教育 について、 （事前） 参考文献等を読み、わからない事項について下調べしておくこと（2時間） （事後） ノートを整理し、講義内容を再確認しながら復習に取り組む（2時間）	
3	保健の授業をつくる ・学習目標の設定 ・学習内容の理解	1) 良い保健授業のイメージづくり 2) 学習目標の設定 3) 学習内容の理解 （事前） 参考文献等を読み、わからない事項について下調べしておくこと（2時間） （事後） ノートを整理し、講義内容を再確認しながらレポート課題に取り組む（2時間）	ディスカッション グループワーク
4	保健の授業をつくる ・教材の準備 ・学習指導計画	1) 教材の準備 2) 授業スタイルを考える 3) 学習指導の計画を立てる （事前） 参考文献等を読み、わからない事項について下調べしておくこと（2時間） （事後） ノートを整理し、講義内容を再確認しながらレポート課題に取り組む（2時間）	ディスカッション グループワーク
5	保健の授業をつくる ・授業めあて ・指導観、教材観、生徒観 ・「学習指導案」づくり	「学習指導案」の作成 ・授業のめあて ・授業到達目標 ・指導観、教材観、生徒観 ・授業進行表 について、 （事前） 参考文献等を読み、わからない事項について下調べしておくこと（2時間） （事後） ノートを整理し、講義内容を再確認しながらレポート課題に取り組む（2時間）	ディスカッション グループワーク
6	保健の授業をつくる ・作成した「学習指導案」の検討と振り返り	作成した「学習指導案」の発表と省察 （事前） 「学習指導案」の作成（2時間） （事後） 作成した「学習指導案」のふりかえり（2時間）	ディスカッション・ディベート グループワーク プレゼンテーション 実習

授業計画

中学校および高等学校における保健体育教育の内、本授業では保健科教育に焦点を当て、「学習指導案」の作成及び模擬授業を主体に授業を展開する。

なお、模擬授業の実施を通して課題を見つけ、フィードバックを行う。

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
7	模擬授業：中学校保健 ・健康な生活と疾病の予防	模擬授業の展開と省察（１） （事前） 「学習指導案」の作成（２時間） （事後） 作成した「学習指導案」のふりかえり（２時間）	ディスカッション・ディベート グループワーク プレゼンテーション 実習
8	模擬授業：中学校保健 ・心身の機能の発達と心の健康	模擬授業の展開と省察（２） （事前） 「学習指導案」の作成（２時間） （事後） 作成した「学習指導案」のふりかえり（２時間）	ディスカッション・ディベート グループワーク プレゼンテーション 実習
9	模擬授業：中学校保健 ・傷害の防止	模擬授業の展開と省察（３） （事前） 「学習指導案」の作成（２時間） （事後） 作成した「学習指導案」のふりかえり（２時間）	ディスカッション・ディベート グループワーク
10	模擬授業：中学校保健 ・健康と環境	模擬授業の展開と省察（４） （事前） 「学習指導案」の作成（２時間） （事後） 作成した「学習指導案」のふりかえり（２時間）	ディスカッション・ディベート グループワーク
11	模擬授業：高等学校保健 ・現代社会と健康	模擬授業の展開と省察（５） （事前） 「学習指導案」の作成（２時間） （事後） 作成した「学習指導案」のふりかえり（２時間）	ディスカッション・ディベート グループワーク プレゼンテーション 実習
12	模擬授業：高等学校保健 ・安全な社会生活	模擬授業の展開と省察（６） （事前） 「学習指導案」の作成（２時間） （事後） 作成した「学習指導案」のふりかえり（２時間）	ディスカッション・ディベート グループワーク プレゼンテーション 実習
13	模擬授業：高等学校保健 ・生涯を通じる健康	模擬授業の展開と省察（７） （事前） 「学習指導案」の作成（２時間） （事後） 作成した「学習指導案」のふりかえり（２時間）	ディスカッション・ディベート グループワーク プレゼンテーション 実習
14	模擬授業：高等学校保健 ・健康を支える環境づくり	模擬授業の展開と省察（８） （事前） 「学習指導案」の作成（２時間） （事後） 作成した「学習指導案」のふりかえり（２時間）	ディスカッション・ディベート グループワーク プレゼンテーション 実習
15	授業リフレクション	・前後期授業総括 ・教員採用試験を想定した問題（専門教養）の出題傾向と対策 ・定期試験について、これまでの授業内容を振り返り、 （事前） 忘れてしまった事項等について振り返りを行う（２時間） （事後） ノートを整理し、定期試験課題に取り組む（２時間）	

基本情報

科目名	保健体育科教育法
時間割コード	0440900301
ナンバリングコード	
開講所属	看護福祉学部鍼灸スポーツ学科
ターム・学期	2024年度 第 1 学期
曜限	月 2
開講区分	第 1 学期
単位数	2.0
学年	3
主担当教員	國木 孝治
科目区分	卒業要件外の科目 要件外
必選区分	選択

担当教員情報

教員名
國木 孝治

詳細情報

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 当該教科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解するとともに、『学習指導要領』に示された中学校及び高等学校における体育実技の学習内容について、背景となる学問領域と関連させて理解を深め、様々な学習指導理論を踏まえて、具体的な授業場면을想定した授業設計を行う方法を身に付けることを目的とする。 【到達目標】 ・中・高生の認識・思考、学力等の実態を視野に入れた授業設計の重要性を理解することができる。 ・当該教科の特性に応じた情報機器及び教材の効果的な活用法を理解し、授業設計に活用することができる。 ・学習指導案の構成を理解し、具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案を作成することができる。 ・模擬授業の実施とその振り返りを通して、授業改善の視点を身に付けることができる。 ・当該教科における実践研究の動向を知り、授業設計の向上に取り組むことができる。
履修上の注意事項	・中・高教職（保健体育）履修者必修科目 ・遅刻・欠席をしないこと ・教育実習（中・高保健体育）へ向けて、自覚（整容等を含む）と言動で臨むこと ・教育実習（中・高保健体育）へ向けて、積極的な準備及び十分な取り組みをすること 尚、この授業の内、模擬授業の実施や、学外中・高校での授業見学等における心構えや取り組み、身だしなみ等の整容については、「鍼灸スポーツ学科 実習に関する内規」に準じるので、学生便覧の該当部分をよく理解しておくこと。
評価方法	・出席及び学習態度・意欲：20/100 ・実践力（ 学習指導案、 学習カード、 模擬授業実践、 実践の振り返り ）：30/100 ・学科考査：50/100
テキスト	購入の必要無し（ 「保健体育科教育法 ・ 」 で使用した教材を活用する ）
参考文献	・文部科学省編（2017）中学校学習指導要領（平成29年公示）解説：保健体育編，東山書房． ・文部科学省編（2018）高等学校学習指導要領（平成30年公示）解説：保健体育編・体育編，東山書房． ・森昭三ほか（2019）新・中学保健体育，学研． ・和唐正勝ほか（2019）最新高等保健体育（改訂版），大修館書店． ・時事通信出版局編（2021）専門教養Build Upシリーズ 「中高保健体育の完全攻略」（2023年度版），時事通信出版局． ・文部科学省編（2017）中学校学習指導要領（平成29年公示），東山書房． ・文部科学省編（2018）高等学校学習指導要領（平成30年公示），東山書房． ・杉山重利ほか編（2010）教師を目指す学生必携「保健体育科教育法」，大修館書店． ・岡出美則ほか編（2021）体育科教育学入門（三訂版），大修館書店． ・久保健（2014）体育科教育法講義・資料集，創文企画． ・高橋健行（2007）体育授業を観察評価する，明和出版．
実務経験のある教員による授業の有無	有
実務経験・実務経験を活かした教育内容	・中学校及び高等学校勤務経験から、具体的な指導事例を交えながら、教育指導者として必要な思考力、判断力、学びに向かう力等を身に付けられる授業を展開していく。

詳細情報

アクティブ・ラーニング及びICTを取り入れた授業の実施	この授業では、各回において課題を出し、翌週以降の授業で模擬授業を実施したり、学外の中・高校へ授業見学訪問するような、主体的・対話的で深い学びの実現を行う。また、ICT教材を活用した効果的な学習場面を設定することによって、個別学習や協働学習の促進を目指す。加えて、各自が持参するPC等を活用した課題の作成や発表資料の作成等を行い、学校教育における1人1台端末に対応したIT教育の教材開発にも触れる。
-----------------------------	--

授業計画

授業計画	
中学校および高等学校における保健体育教育の内、本授業では体育実技に焦点を当て、「学習指導案」の作成及び模擬授業の展開を主体に授業を進める。 なお、模擬授業の実施を通して課題を見つけ、フィードバックを行う。	

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
1	授業ガイダンス	（事前） ・シラバスを読んでおくこと ・1学期の復習をしておくこと	・授業の進め方、授業評価、学校教育に係る全体像の把握
2	体育実技概論	1)「保健体育科教育法」のふりかえり 2)学校教育における体育実技の位置づけ 3)我が国における体育科教育の歩み 4)諸外国の体育教育について、 （事前） 参考文献等を読み、わからない事項について下調べしておくこと（2時間） （事後） ノートを整理し、講義内容を再確認しながら復習に取り組む（2時間）	
3	体育実技の授業をつくる ・学習目標の設定 ・学習内容の理解	1)良い体育授業のイメージづくり 2)学習目標の設定 3)学習内容の理解 （事前） 参考文献等を読み、わからない事項について下調べしておくこと（2時間） （事後） ノートを整理し、講義内容を再確認しながらレポート課題に取り組む（2時間）	ディスカッション グループワーク
4	体育実技の授業をつくる ・教材の準備 ・学習指導計画	1)教材の準備 2)授業スタイルを考える 3)学習指導の計画を立てる （事前） 参考文献等を読み、わからない事項について下調べしておくこと（2時間） （事後） ノートを整理し、講義内容を再確認しながらレポート課題に取り組む（2時間）	ディスカッション グループワーク
5	体育実技の授業をつくる ・授業めあて ・指導観、教材観、生徒観 ・「学習指導案」づくり	「学習指導案」の作成 ・授業のめあて ・授業到達目標 ・指導観、教材観、生徒観 ・授業進行表について、 （事前） 参考文献等を読み、わからない事項について下調べしておくこと（2時間） （事後） ノートを整理し、講義内容を再確認しながらレポート課題に取り組む（2時間）	ディスカッション グループワーク
6	模擬授業 ・体づくり運動	模擬授業の展開と省察（1） （事前） 「学習指導案」の作成（2時間） （事後） 作成した「学習指導案」のふりかえり（2時間）	ディスカッション・ディベート グループワーク プレゼンテーション 実習

授業計画

中学校および高等学校における保健体育教育の内、本授業では体育実技に焦点を当て、「学習指導案」の作成及び模擬授業の展開を主体に授業を進める。

なお、模擬授業の実施を通して課題を見つけ、フィードバックを行う。

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
7	模擬授業 ・器械運動	模擬授業の展開と省察（2） （事前） 「学習指導案」の作成（2時間） （事後） 作成した「学習指導案」のふりかえり（2時間）	ディスカッション・ディベート グループワーク プレゼンテーション 実習
8	模擬授業 ・陸上競技（または水泳）	模擬授業の展開と省察（3） （事前） 「学習指導案」の作成（2時間） （事後） 作成した「学習指導案」のふりかえり（2時間）	ディスカッション・ディベート グループワーク プレゼンテーション 実習
9	模擬授業 ・球技(1)：ゴール型	模擬授業の展開と省察（4） （事前） 「学習指導案」の作成（2時間） （事後） 作成した「学習指導案」のふりかえり（2時間）	ディスカッション・ディベート グループワーク プレゼンテーション 実習
10	模擬授業 ・球技(2)：ネット型	模擬授業の展開と省察（5） （事前） 「学習指導案」の作成（2時間） （事後） 作成した「学習指導案」のふりかえり（2時間）	ディスカッション・ディベート グループワーク プレゼンテーション 実習
11	模擬授業 ・球技(3)：ベースボール型	模擬授業の展開と省察（6） （事前） 「学習指導案」の作成（2時間） （事後） 作成した「学習指導案」のふりかえり（2時間）	ディスカッション・ディベート グループワーク プレゼンテーション 実習
12	模擬授業 ・武道	模擬授業の展開と省察（7） （事前） 「学習指導案」の作成（2時間） （事後） 作成した「学習指導案」のふりかえり（2時間）	ディスカッション・ディベート グループワーク プレゼンテーション 実習
13	模擬授業 ・ダンス(1)：創作ダンス・フォークダンス	模擬授業の展開と省察（8） （事前） 「学習指導案」の作成（2時間） （事後） 作成した「学習指導案」のふりかえり（2時間）	ディスカッション・ディベート グループワーク プレゼンテーション 実習
14	模擬授業 ・ダンス(2)：現代的なリズムのダンス	模擬授業の展開と省察（9） （事前） 「学習指導案」の作成（2時間） （事後） 作成した「学習指導案」のふりかえり（2時間）	ディスカッション・ディベート グループワーク プレゼンテーション 実習
15	授業リフレクション	・前後期授業総括 ・教員採用試験を想定した問題（専門教養）の出題傾向と対策 ・定期試験について、これまでの授業内容を振り返り、 （事前） 忘れてしまった事項等について振り返りを行う（2時間） （事後） ノートを整理し、定期試験課題に取り組む（2時間）	